

徳山高専だより

National Institute of Technology , Tokuyama College

特集

2025年度
徳山工業高等専門学校 No.79

アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2025中国地区大会



The 2025 ICPC World Finals Baku 出場



38	高城会より／編集後記
37	退職教職員から
35	学生会活動
33	高城寮より
31	国際交流活動報告
30	留学生だより
29	キャリア教育・学習支援室より
25	わたしの就職進学STORY
23	今年の就職・進学状況
22	令和7年度就職・進学先一覧
17	徳山高専生の挑戦！継続は力なり
09	Look Back 2025
07	課題発見解決プロジェクト
05	The 2025 ICP World Final Baku出場
03	高専ロボコン2025中国地区大会
02	巻頭言

Check!

ホームページ



YouTube

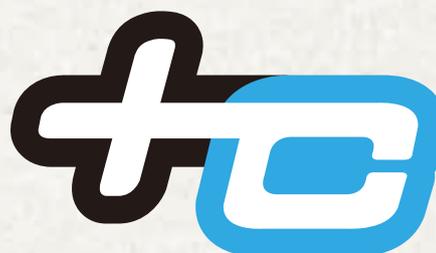


Follow me!

Facebook



Instagram



徳山高専

National Institute of Technology,
Tokuyama College

5つのC

1. **C**reation 「創造」
2. **C**hallenge 「挑戦」
3. **C**ooperation 「協働」
4. **C**ommunication 「コミュニケーション」
5. **C**ritical thinking 「批判的思考」

ホームページや各SNSで情報を発信しています。

巻頭言

「建学の理念とともに、未来へ」



徳山工業高等専門学校
校長

阿部 恵

創立五十一年目を迎えた徳山工業高等専門学校は、未来に向けた新たな一歩を踏み出す一年となりました。その歩みを重ねる中で、令和七年度も三月を迎え、卒業生が新たな進路へと歩みを進め、在校生が次の学年へと進級する季節となりました。この時期は、本校にとって、一年間の教育活動を振り返るとともに、次なる歩みへと視線を向ける大切な節目です。

本校は、創立以来、「技術を愛する人、信頼される人」を育てることを建学の理念として掲げてきました。言い換えれば、技術を深く学び、その技術と真摯に向き合いながら、人として信頼される姿勢を備え、広く社会の安全と人々の幸福に寄与する人物を育む教育です。高度な技術を身に付けることにとどまらず、その技術を

どのように社会や人々のよりよい未来のために生かすのかを考え、責任ある行動ができる技術者を育成することが、本校の教育の原点であると考えています。

今年度も、学生たちは授業や実験・実習に真摯に取り組むとともに、課外活動、研究活動、大会への挑戦、地域連携、国際交流など、様々な場面で挑戦を重ねてきました。成果の大小にかかわらず、困難に直面しながらも粘り強く考え、仲間と協働し、一歩ずつ成長していく姿は、まさに「人を育てる教育」の成果であり、本校の誇りです。

また、徳山高専は地域に根ざした高等教育機関として、地域社会との連携を大切にしてきました。地域課題に向き合う学びや、国内外との交流を通じて得られ

る経験は、学生一人ひとりの視野を広げるとともに、人間性を豊かにし、技術者として社会に果たすべき責任を自覚する契機となっています。地域と世界の双方に目を向け、よりよい未来をつくることに貢献できる人材を育むことは、これからの時代において、強く求められています。

このような学生の成長は、決して教職員だけの力で成し得るものではありません。保護者の皆さまや地域の皆さまに温かく見守り、励ましていただく中で、教職員がそれぞれの立場から学生一人ひとりに寄り添い、学校全体で成長を支えることによって、はじめて実現できるものです。本校が大切にしてきた、教職員の密な連携と継続的な関わりを、今後も変わらず育んでいきたいと考えています。

アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2025

中国地区大会

8年ぶりに徳山高専が開催校

令和7年10月5日(日)、防府市のダイキョーニシカワスクエア(防府市スポーツセンター体育館)にて、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2025 中国地区大会」が開催されました。

今大会の競技課題は「Great High Gate」というタイトルで、ロボットが箱を積み上げてゲートを構築し、そのゲートを人が乗った台車とともに通過するという内容でした。

大会には中国地区8高専から各校2チームが参加し、熱戦を繰り広げました。本校からも2チームが出場し、残念ながら全国大会出場とはなりませんでしたが、両チームとも特別賞を受賞しました。

また、今大会は本校が8年ぶりに開催校を務める大会でした。運営には教職員に加え、約80名の学生が協力してくれました。補助学生のみなさんには、前日の会場設営や競技で使用するダンボールの準備、出場ロボットの事前計測、当日の受付業務や会場誘導、本番中にフィールド上でダンボールを整頓するなどの競技運営補助、賞状の筆耕や表彰式での介助役、さらに終了後の撤収作業に至るまで、大会運営に関するあらゆる面でお手伝いいただきました。

皆さまのご協力のおかげで、当日は他高専からの参加者やNHKの関係者の方々、そして約500名の観客の皆様からも、円滑な大会運営に対して感謝の言葉をいただきました。ご協力いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。



運営補助学生の感想・コメント

情報電子工学科5年 **村野 悠之介**

(競技進行補助、設営・撤去)

高専生活最後の1年で、ロボコンに関わる機会を逃したくないと思い、運営補助として参加しました。私は競技直前の装備最終確認を担当し、競技に向かうチームの緊張感を最も近くで感じる立場でした。選手の真剣な表情から、ロボコンに懸ける思いの強さが伝わってきました。競技を支える立場として、自分も同じ気持ちで向き合う責任を感じました。

機械電気工学科4年 **中山 大夢**

(設営・撤去)

補助学生として運営に携わりながらの観戦でしたが、生の迫力は映像とは別物でした。しっかりと計算されたロボットの挙動や、予期せぬトラブルにも動じない選手の集中力、同じ学生として大きな刺激を受けました。特に制限時間数秒前、勝利を諦めない執念の攻防には、ドラマがありました。このハイレベルな大会を裏方として支えた経験は、私自身のものづくりに対する意欲を大きく引き上げてくれました。

高専ロボコン2025

悔しさを燃料にして高い目標へ、そして次代に繋がる活動を

機械電気工学科 准教授 池田将晃

高専ロボコン2025の大会テーマは『Grate High Gate』でした。ロボットを操縦して所定の場所に立方体や直方体の種類の大サイズの段ボール箱を使用してできるだけ高いゲートを作り上げ、同じロボットが台車に乗った人と一緒にそのゲートをくぐり抜けることが競技課題の中心でした。

10月5日(日)に山口県防府市で中国地区大会が開催され、徳山高専から出場した2チームは、Aチームの「不諦積奮(フテイセキブン)」とBチームの「セキュリティホール」です。Aチーム「不諦積奮」は決勝トーナメントに進出し、準決勝で惜敗ながらも特別賞(本田技研工業株式会社)を受賞しまし



ゲート模型



特別賞 徳山高専Aチーム



特別賞 徳山高専Bチーム

た。Bチーム「セキュリティホール」は予選ラウンドで敗れましたが、特別賞(株式会社田中貴金属グループ)を受賞しました。

昨年度の大会ではロボットが未完成で終わり、参加した学生達は非常に悔しい思いをしていました。今年度の2年生以上の学生は皆、程度の大小はあれその悔しさを胸に高専ロボコンに臨んでいました。スタートゾーンから出られるように、地区大会で良い成績を残して全国大会へ、高くは全国大会優勝やロボコン大賞を手にするなどを目標に、時に意見の摩擦が有りながらも、目指すロボットをより良い形で完成させるために活動に励んでいました。

さらに今年度は多くの学生が

新たに活動に参加してくれました。上級生は高専ロボコンのための作業で忙しくする中でも、自分の得意分野に関する講習会の企画や、作業の一部を任せて経験を積んでもらう等、次世代に繋がる活動にも積極的でした。活躍してきた技術も大切にしつつ、新しい技術も積極的に取り入れたい意欲も持っています。考え方の摩擦もより良いモノを作ると同じ目標のためのエネルギーとなっていけばと考えています。

学生達の意欲的な姿勢をできる限り尊重して支援し、より良い経験に繋がる環境づくりを心掛けていきますので、今後とも応援よろしく願います。

学生達の意欲的な姿勢をできる限り尊重して支援し、より良い経験に繋がる環境づくりを心掛けていきますので、今後とも応援よろしく願います。

土木建築工学科2年 嶋田愛桜
(場内誘導)

ボランティアは初めての経験だったので、最初は少し不安でしたが、大人の方に教えていただきながら、友達と楽しく参加することができました。大会も観ていてとても面白くて印象に残っていますし、沢山の人の協力成り立っていることを実感でき、貴重な経験になりました。

土木建築工学科4年 山本和弥
(設営・撤去)

ロボコン中国大会の設営補助として参加し、会場の設営を多くの方と連携しながら行いました。競技の裏側では、多くの人が時間と労力をかけて会場を作り上げており、大会は競技者だけでなく、支える人々の努力によって成り立っていることを実感しました。また、自分が設営に関わった場所を競技者の方々が使用している様子を見たとき、大きなやりがいを感じました。今回の経験は、大会運営を支える立場を知る貴重な学びとなりました。

機械電気工学科4年 白神拓実
(ピット、設営・撤去)

私が高専を志した理由にロボコンがあります。その夢にまで見てた「ロボコンに参加すること」を補助として叶うことができ、とてもうれしく思っています。

今回のロボコンに「一言うことがあるとするのなら、それは「個性豊かな子たちが見られたけど準備・片付けが結構大変だった」です。

同じゲートを作っていくテーマですが、動きや機構(ブロックの吸い付きによるものや下から持ち上げるものなど)や外観に各高専の工夫がみられて、高専生の発想力の豊かさを実感しました。会場設営や後片付けは肉体労働で疲れましたが、貴重で忘れられない経験でした。最初に最後の貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

高専初の快挙！

世界最高峰の大学対抗プログラミング競技大会へ出場

教育研究支援センター 技術専門職員／コーチ 河村 麻子

9月にアゼルバイジャンで開催された「The 2025 ICPC World Finals Baku」に棟近祐希さん(24年度情報電子工学科卒業)、児玉隆之介さん(24年度機械電気工学科卒業)、広政遼汰さん(24年度情報電子工学専攻修了)の



チーム「XNOR」が出場しました。ICPC(国際大学対抗プログラミング競技大会)は、大学生が3人1組のチームでプログラミングと問題解決の能力を競う大会で、高専の4年生以上にも参加資格があります。世界大会へは103カ国から各地域予選に参加した大学の中から上位1%のみが進出できます。徳山高専チームは、昨年度、在学中に国内予選、横浜大会、アジア太平洋地区大会を突破し、見事世界大会への切符を手に入れました。世界大会への出場は、日本の大学・高専としては11校目、高専としては初の快挙です。参加した3名は、日本から出場した東京大学、東京科学大学(旧東工大)、京都大学のチームや、世界各国の学生との交流を楽しみ、現地の人や文化に触れるなど、貴重な国際経験を積むことができました。

ICPCってどういう大会？

チームに与えられた1台のパソコンを使って5時間の制限時間内に12の複雑なアルゴリズム問題を解き、その正答数と解答速度を競います。正答数が同じ場合は所要時間(ペナルティ)の少ないチームが高い順位となります。プログラムの提出は何度でもできますが、誤答の場合は20分のペナルティが加算されるので正確性も求められます。

アルゴリズムや数学の知識、ひらめきとプログラムを実装する力だけでなく、役割分担などの戦略や状況判断力などチームとしての力を試される大会です。

世界大会までの道のり

24年7月に国内予選(オンライン)、12月に横浜大会、25年3月にアジア太平洋地区決勝大会、年度をまたいで9月に世界大会が開催されました。

徳山高専は23年度も国内予選を突破し、横浜大会に出場していますが、惜しくもそこで敗退しています。今回はチームメンバーを一人変更しての再挑戦で、見事に横浜大会を突破し(実はこれも高専初!)、それぞれろろアジア太平洋地区決勝大会で銅メダルをとり、世界大会への進出を果たしました。

横浜大会へは毎年、数校の高専が出場しています。プログラミングが好きな大学生、高専生と交流でき、よい経験になるようです。また、徳山高専の3人は、パソコン甲子園や高専パソコンへも出場したことがありますが、最初からうまくいったというわけではありません。失敗しながらも色々挑戦することで見えてくるものがあると思います。興味があったら何でもいいので挑戦してみてください。



Day 1 到着・チーム登録

空港に着いて税関を抜けると、ICPCのインフォメーションカウンターがあり、学生スタッフがホテル行きのバスまで案内してくれました。この後の日程もホテルと会場間は専用のバスで移動し、夕食も準備されていたので、安心して過ごすことができました。ホテルで受付を済ませると、チームTシャツや夕方のチーム登録に必要な書類を渡されます。世界大会ではTシャツの色を選ぶことができ、徳山高専は水色で、背中に「Tokuyama Kosen」とプリントされています。学生たちはとてもうれしそ

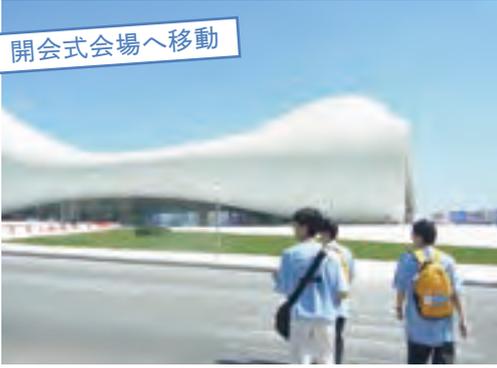


The 2025 ICPC World Finals Baku

うでした。

少し時間があつたので、チルゾーンに行ってみました。このチルゾーンはホテルと大会会場の両方にあつて、スポンサー企業のブースやボードゲーム・テレビゲームなどが用意されていて参加者が交流できるよになつています。Open AIのブースで、少し変わった数独に挑戦しました。数字ではなく、AからIの英字を埋めるもので、A-G以外は簡単に埋まるけど、そこが難しいという洒落の効いたパズルです。数独を解くのは初めてという学生もいましたが、はまつたようです。次の日、会場のチルゾーンでもSUDOKUと書かれたパズルが配られていて、大人気でした。このように、参加している学生たちの関心を引くものが色々準備されていて、空き時間も楽しく過ごせるように工夫されていました。夕食後にチーム登録と写真撮影がありました。このときにコンテストに持ち込むものを預けます。筆記用具、自作ライブ러리、英語の辞書、好きなキャラクターのぬいぐるみを預けました。(※マスコットを持ち込むことができ、名物となっています。)

開会式会場へ移動



Day 2 講演聴講・博物館見学・開会式

午前中に講演を聞いて、午後は会場の隣にあるヘイダル・アリエフ・センターの中にある博物館に見学に行きました。アゼルバイジャンの歴史、文化（絨毯・民族衣装・音楽）が展示されている曲線が印象的な真っ白な建物で、開会式もここで行われました。

Day 3 リハーサルとちょっと観光

本番で使う会場で2時間のリハーサルを行います。実際に簡単な問題が出題され、パソコンの使い方などを確認しました。その後、有名なプログラマの対戦形式の実演などがあり、それが終わると夕食まで2時間ほど空き時間があつたので、東京科学大学と京都大学の皆さんと一緒に観光に行きました。最初に旧市街を散策しました。途中、現地の家族連れに声を掛けられ、学生たちは戸惑いながらも笑顔で対応していました。その後、ケーブルカーで高

リハーサル



国際交流中



台に登り、夕景を眺めました。短い時間でしたが、旧市街やモスクなどの中東らしさと欧風の建物、現代の斬新な建造物が入り混じったバクーの雰囲気を感じる事ができました。帰りのタクシーでは、ひと騒動あつて学生は少し驚いていましたが、海外ではありがちな、ちょっとした出来事もいい経験になつたのではないかと思います。

Day 4 ICPC Challenge

限られた時間でよりよい解決方法を目指す、ヒューリスティック問題を3時間で解くコンテストが行われました。

Day 5 本番と表彰・閉会式

いよいよ本番です。徳山高専チームは「メダルは難しいだろうけど、とにかく全力で1問でも多く解こう!」という目標で臨みます。選手は競技中に、他のチームの状況がわかるスコアボードを見ることが出来ます。このスコアボードは終了1時間前に凍結され、その後提出された問題については競技終了後の表彰式でのYes/Noと

呼ばれるイベントで発表され、下位から順位が確定していきます。凍結後に提出されたものがYes(受理)であれば順位が上がっていきます、とても盛り上がるイベントです。徳山高専は日本チームの中では早めにチームに贈られる「Honors賞」を受賞しました。最後に残った東京大学は凍結前順位1位で、私たち日本勢は「優勝なのは？」と期待して発表の時を待ちます。結果は、惜しくも2位で、少し残念な気持ちになりましたが、メダルや盾を手に笑顔で壇上から戻ってきた東大チームを拍手で迎え、近くにいた海外選手と一緒に握手をしたり、記念撮影をしたりして、みんな

で讃えました。

Day 6 帰国・大会を終えて

朝食後に空港に向かい帰国します。慣れない遠い国での開催で、誰か体調を崩したりしないだろうかと不安もありましたが、全日程を無事に終えることができ、ほっとしました。徳山高専は初出場でしたが、他の日本の大学は世界大会常連校で、とても頼もしく、いろいろと教えていただき助かりました。ありがとうございました。

徳山高専のチーム「XNOR」は、これで解散となります。高専生としての生活の最後に、世界最高峰の大会へ出場し、誇らしさと、もつと何かできたのでは?という少しの後悔もあつたようですが、貴重で大きな経験と思ひ出を得ることができました。東京大学に編入した棟近くんは「次は東大チームとして世界大会を目指します!」と次の目標を見つけたようです。他の2人も含め、今後は進学・就職先の活躍が期待されます。

STEAM2025 実践報告

1・2年生目線で 課題を発見し解決する

一般科目 助教/科目コーディネーター 高槻 侑吾

徳山高専の STEAM教育

Society 5.0時代の社会的課題を解決できる技術者を育成するため、徳山高専ではPBL(Project Based Learning)課題解決型学習を積極的に取り入れ、学生の基盤的資質・能力や創造性、デザイン能力の涵養を図っています。そのひとつが本科1・2年生対象の「課題発見解決プロジェクト」です。この授業では、学生たちが学科学年の枠を超えて協働しながら課題を発見し解決する力、物事を多面的に捉える力、コミュニケーション能力を身につけることを目指しています。今年度は学生をあらかじめ33のグループに分けた状態で授業を開始し、グループで決めたテーマを1年間かけて探究しました。

探究の基礎を学ぶ

探究活動に必要な知識は科目コーディネーター教員による全体講義や外部講師によるワークショップで学びました。科目コーディネーター教員による

全体講義では、情報の収集と適切な取り扱い、レポート作成とプレゼンテーションのスキルといったインプットとアウトプットの方法を学びました。また、本校卒業生(2018年度機械電気工学科卒)でOLIEN TECH株式会社代表(当時)の河野朋基さんを講師に招いたワークショップでは、グループで取り組むテーマやチーム名の検討、探究活動の心構えや発見した課題を解決していくアプローチ方法を学びました。

探究し成果を発表する

テーマを決めたあとはリーダーを中心に学生主体で活動を進めました。先行研究や先行事例を調査したり、アンケートやインタビューで得られたデータを分析したり、フィールドワークをしたり……。思うようにいかない場面もありましたが、指導教員に助言を求めながら粘り強く取り組みました。1年間にわたる探究活動の成果はグループでポスターにまとめて最終発表会で報告し、個人でもレポートにまとめて指導教員に提出しました。



授業風景



OLIEN TECHワークショップ風景



最終発表会風景



徳山高専の課題や徳山駅に隣接する商業施設の活性化など、学生にとって身近なテーマで考察を深めました！
テーマごとの学生のコメントはこちら。

徳山高専の地図を作る(B・2…迷子対策委員会)

機械電気工学科2年 中谷 光貴

1年間の集大成にあたる最終発表では要点を端的にわかりやすく説明することができました。質問を受けて自分たちの地図の抜けに気づくことができたので、今後さらにアップデートして完璧なものにしたいと思います。

2025年度のテーマ一覧

グループ	チーム名	テーマ	指導教員
A-1	バス停整備し隊	徳山高専の環境問題を解決する	片山 光亮
A-2	ノンパスカル・バスストップ	徳山高専バス停の居心地を改善する	
A-3	いつとせけんじ	どうすれば学生が徳山高専の校歌を覚えるか	
B-1	ならばなければだめですか？	徳山高専の学食が混雑する問題を解決しよう!!	福田 明
B-2	迷子対策委員会	徳山高専の地図を作る	
B-3	快適寮計画	徳山高専の学生寮を快適にしよう!	
C-1	マップメイカーズ	徳山高専の案内マップを作ろう	池田 将晃
C-2	SUMAP	留学生や外国人が分かりやすい徳山高専マップを作る	
C-3	コーセンホイホイ	オリジナルホイホイを作ろう	
D-1	わんぱく田舎っぺ	徳山高専留学生増やそう大作戦	室谷 英彰
D-2	モリモリス	徳山高専周辺の生態系を調査する	
D-3	C&C (Comfortable Cafeteria)	徳山高専の学食を快適にしよう	
E-1	Atlas	徳山高専のマップを作る	柳澤 秀明
E-2	クーリングオフ	徳山高専の暑さや寒さの問題を解決しよう!	
E-3	高専坂46	高専坂の改善	
F-1	EEE (Everyone Enjoy Eating)	徳山高専の学食の課題解決	増井 詠一郎
F-2	しんにようじ	書き順正しく美しく	
F-3	applate	徳山高専バス停の環境改善	
G-1	COOLISH~ひんやりしあわせ~	徳山高専体育館の猛暑対策	桑嶋 啓治
G-2	チームちゃんリコ	徳山高専バス停に屋根を付けよう	
G-3	ペンギンお助け隊	徳山高専情報発信アプリを作ろう!!	
H-1	猫バス	徳山高専バス停の猛暑対策	宇根 拓孝
H-2	team BUG	徳山高専から虫を減らそう	
H-3	バスってる。	徳山高専バス停の改善	
I-1	TBP (Try Bicycle Problem)	徳山高専の自転車問題について	高橋 祥吾
I-2	Green Division	ゴミ大作戦~徳山高専の環境を守ろう!!~	
I-3	先執widens	高専卒の価値を上げるためには	
J-1	CCPAS	Conclave Commune Purchase Automatic Systems	奥山 広規
J-2	トクマガ	徳山デッキを盛り上げる	
J-3	無視(虫) ユーダgym	徳山高専の体育館を快適にしたい	
K-1	hg^2	成績を上げるプロジェクト~Getting high grade~	中村 康晴
K-2	PoyPoy	ゴミ捨て場所の確保と学生全員のゴミの分別意識を高めよう	
K-3	売 buy fight!!	徳山高専にセブンティーンアイスを実装する	

徳山高専の暑さや寒さの問題を解決しよう!
(E-2...クーリングオフ)

情報電子工学科2年 前田 唯月

私の班では「暑さや寒さについての問題」という身近な問題に目を向け、解決策を考えました。自分たちで課題を発見し、解決まで考えた経験は大きな自信につながりました。この学びをこれから生かしていきたいです。

徳山デッキを盛り上げよう(J-2...トクマガ)

土木建築工学科2年 阿部 芭菜

この授業をきっかけに、自分たちで企画した工作教室を実際に開催しました。企画の難しさや成功させるための工夫を学び、実践を通して多くの気づきと達成感を得られた、貴重な経験でした。

徳山高専の学食が混雑する問題を解決しよう!!
(B-1...ならばなければだめですか?)

機械電気工学科1年 井澤 潤久

一年間、学食をよりよくする案を考えました。班で意見を出し合い、アンケートで利用者の声を取り入れながら取り組みました。この活動を通して、身近な問題を深く考える大切さを学びました。

徳山高専から虫を減らそう
(H-2...team BUG)

情報電子工学科1年 多田 限 天空

アンケートで虫の多い場所を把握し、実際に現地で虫の種類やその環境を調べました。長期間かけて一つの課題に向けて活動するのは初めてだったので、調査の大切さやデータを基に考える重要性を学ぶことができました。

徳山高専にセブンティーンアイスを実装する
(K-3...売 buy fight!!)

土木建築工学科1年 花房 奏音

班員同士で意見を出し合い、よりよい案に絞っていくことや、スライドを作成する過程が楽しかったです。取り組む課題を自分たちで自由に決められたことや、授業で先輩方と交流できたことも新鮮で印象に残りました。

一般科目



legit は、元々「合法の、正当な」という意味を持つ legitimate の省略表現で、「質が高い、ホンモノ」という意味のスラングです。日本語で言えば、「マジで」とか「ガチで」に当たり、ネイティブスピーカーが何かかっこいいものやイケてるものを表す形容詞として日常的に使われています。

I love I love this music. It's totally legit.
この音楽大好き。ホンモノだね。

一般科目毎年恒例の legit インタビューですが、今回は令和 6 年度に着任された一般科目のリービス先生と石飛先生のお二人にインタビューを行い、先生方の legit に触れていきたいと思っております！

リービス・カーティス先生

LEGIT #1



高橋…まずはリービス先生のお人柄を皆さんに知ってもらいたいです。普段、休日などにどのようなことをして過ごされていますか？

リービス…最近では詩作に力を入れています。

普段とは全く違うタイプの長編詩を 2 編執筆中ですが、とても期待しています。昨年々は Poems from the Black Lagoon という詩集に数編の詩を寄稿しました。また、自然災害への備えや調査にも多くの時間を費やしています。そうすることで不安が軽減され、キャンプ用品も揃えられるようになり、キャンプも楽しんでいます。リラックスタイムには Apex Legends というゲームをプレイし、ランク戦に力を入れています(ダイヤモンドランクを目指しています)。Apex Legends はシーズンからプレ

イしていて、それほど上手ではありませんが、とても楽しんでいます。メインは Rampart と Fuse です。あと、チェスもやります。もし私と一緒にチェスをしたい人がいたら教えてください。

高橋…そういえば研究室にチェス盤を置いていらつしゃいますね。詩やキャンプなど多趣味なんですね。次の質問ですが、リービス先生はほとんどを英語で話す授業をされていますが、普段教えるときにどんなことを考えて教えておられますか？

リービス…学生には勉強する理由が必要だと思つています。また、日本の学生の多くは英語を学ぶ本当の理由を見出せていないと感じています。だからこそ、私は英語の授業を「英会話」から、高専生がもっと興味を持ちそうなテーマ、例えば気候変動、SDGs、生物学、社会貢献活動などへとシフトさせています。テストを受けるためだけでなく、英語を練習したり勉強したりする理由を学生に与えることは不可欠です。教室は、学生が本当に興味のあるテーマについて会話する機会となるようにしたいのです。

高橋…確かに学生の皆さんにはテストで点をとる以外のことを学ぶ理由として持つてほしいですね。リービス先生は徳山高専の学生にどの

ような印象を持っていますか？

リービス…この学生には、若い頃の自分をたくさん見ています。高校生の頃は学校が好きではありませんでした。多くの友人も同じように学校を辞めてしまいました。幸いなことに私は辞めずに済みました。高校を卒業して小さなコミュニティカレッジに入学した後、自分が興味のある分野を学ぶことが実は大好きだということに気づきました。学校を辞めた友人たちは、学ぶことへの愛に気づくことができず、残念ながら私と同じ機会を得ることができませんでした。徳山高専には、高校時代の私と同じような思いをしている学生がたくさんいると思います。私は彼らを励まし、学ぶことに興味を持ってもらいたいと思つています。もちろん、徳山高専には多様な学生がいて、学ぶことに非常に熱心な学生もいます。しかし、もし教室を見回して、とても内気だったり、ぎこちなかったりする人がいるかもしれませぬ。その人はもしかしたら、若い頃の私かもしれませぬ。ですから、どうかその人に優しく接してください。私は誰もが自分の好きなものを見つめるチャンスを与えたいと思つています。

高橋…そうですね。学ぶ理由を見つけている学生もいれば、まだ見つけられて

LEGIT
#2

石飛 朱萌 先生



石飛..他に、座学の保健の授業も担当しています。

高橋..あ、そうでしたね。体育って学生によつて好き嫌いが分かれる印象なのですが、普段教鞭を取られる中で、どんなことを思つて授業をしていらっしゃるのですか？

石飛..「体育では、「諦めない・やればできる」と思つてもらえるように心がけて授業しています。中学校までの経験で、学生のみならずそれぞれが自分の得意不得意をある程度把握していると思えますし、その結果、気が乗らない種目もあるのは理解しています。お恥ずかしながら、私も剣道以外は、各種目を部活動等で経験してきた学生には実力で敵わないこともあるので、教員になった今でも学生の皆さんと同じ気持ちを経験・理解していると思っています。その上で、「できないと思うから頑張らない」のは勿体無いです。私の経験上、やってみれば絶対何か得ることや成長を感じることができると思っています。なので、私も授業中に同じように練習して、身近な人ができるようになっていく姿を見てもらうことで、少しでも学生の皆さんのモチベーションや励みになると思います。

高橋..なるほど。石飛先生ご自身ができるようになる過程を体現して見せようという感じなのですね。保健の方はどうですか？

石飛..保健の授業では、興味を持ってもらえるように、最近の流行り等と何とか関連づけられないか、試行錯誤しています。学生の皆さんと歳が近い方ではあります。ジェネレーションギャップを感じることも…(笑) 皆さん、流行りを教えてください！

高橋..石飛先生ほどお若い方でも、すでにジェネレーションギャップがあるものなのですね(笑) 日頃感じる学生さんの印象はどうですか？

石飛..私が高校生だった時よりも、将来を見据えて勉強等に励んでいる姿が印象的です。休み時間などはノリ良く話かけてくれることもあつて、私も学生になったかのように楽しく過ごさせてもらっています。

高橋..部活中など学生と楽しくお話ししてらっしゃる姿を見ます。学生も楽しそうです。そんな学生の皆さんに一言メッセージをお願いします。

石飛..今、徳山高専でしかできないことを「一杯楽しんでください！」。そのためにも体力は必要なので、引き続き体育の授業(特に補強)、一緒に頑張りましょう！

高橋..ありがとうございます！

多趣味で学ぶことの楽しさを大切にしているリービズ先生。毎朝、廊下で挨拶運動されています。是非皆さんもリービズ先生に声をかけて挨拶してみてください。

リービズ..学ぶことを学ぶことは、おそらく成功への最も重要な鍵の一つであり、適応力にも不可欠です。今どんな人生を送つても、将来どうなるかは誰にも分かりません。私の場合、日本に住む計画は全くありませんでしたが、今ここにいます。大切な家族を育て、大好きな仕事(この仕事です!)を見つけることができました。世の中は変化しています。私たちが望むと望まざるとに関わらず、その変化はさらに加速していくと思います。恐ろしいことかもしれませんが、とてもエキサイティングなこともありません。私たちは変化に合わせて変化し、新しい状況に適応し、学ぶことを学び、疑問を持ち、ますます相互につながる世界の中で、常に行動と信念を調整していく必要があります。

高橋..ありがとうございます！

高橋..石飛先生は昨年4月に着任されて、今年で徳山高専2年目ですね。先生としての側面以外も皆さんに知ってもらうのも良いなと思つてののですが、石飛先生は趣味などお持ちですか？

石飛..趣味は運動することだったり、スポーツ観戦に行くことです。小学校1年生から剣道をしていて、今も時間があれば稽古しに行っています。最近、友人に誘われて初めてハーフラソン大会に出場してなんとか完走しました。

高橋..体育の先生だから運動の趣味をお持ちだろうとは思っていたのですが、絵本作家の企画展も行かれるんですね。

高橋..次は質問ですけど、授業は体育のご担当ですね。

いつも元気な石飛先生のインタビューでした。皆さんも是非、石飛先生と今の流行りについて話してみてください。

機械電気工学科

Look Back 2025

ME2

総合実地演習

機械電気工学科2年生は夏休みの期間を利用して県内企業にて5日間総合実地演習を行いました。基本的には自宅から通勤できる範囲の企業としていますが、受入企業側で宿泊施設を手配頂ける場合もあり、今回は5名が宿泊先から通勤しました。受入先企業と実習生の人数および実習期間は表1のとおりです。44名中19名が実習に参加しました。

実習生の受講後の感想として多かったものは以下のとおりです。

1. CAD・設計・製図に関する学び…
現場での設計体験や学校の学びとの関連性を実感した。
2. 工場・現場の見学からの気づき…
設備や工程を見て理解が深まった。
3. 品質管理・検査・測定的重要性…
正確な測定・検査と道具の扱い方を学んだ。
4. 自動車整備の体験学習…

- 整備現場での安全性やプロ意識を学んだ。
5. 安全意識・安全教育の学び…
安全に作業するための心構えを学んだ。

受入企業からの所感として多かったものは以下のとおりです。
なお、受入企業からの評価平均点は100点満点中95.4点でした。

1. 積極性・主体性…
積極的に取り組む姿勢に高評価を頂きました。
2. 取組姿勢(真面目・誠実・計画性・丁寧さ)…
業務への真摯な姿勢に高評価を頂きました。
3. コミュニケーション力・協調性…
チームへの関わり方への高評価を頂きました。
4. 質問・発言の積極性…
学びの姿勢・能動的な情報収集を評価する所感を多く頂きました。
5. 挨拶・礼儀・基本動作…
社会人としての基本姿勢に高評価を頂きました。

表1. 受入先企業及び実習生人数と実習期間

	受入企業名	人数	宿泊	実習期間
1	(株)ニシエフ	1	○	9/1～9/5
2	(株)宇部建設コンサルタント	3	○	9/1～9/5
3	(株)ミヤハラ	3		9/1～9/5
4	東洋鋼板(株)	2		9/1～9/5
5	富士高圧フレキシブルホース(株)	2		9/1～9/5
6	山口三菱自動車販売(株)	1		9/2～9/6
7	山口日産自動車(株)	1		9/4～9/8
8	(株)フジテクノ	3		9/8～9/12
9	宇部工業(株)	1	○	9/8～9/12
10	周南市役所	2		9/9～9/12、9/16

機械電気工学科では早い段階で企業との接点を得られる機会があるので、積極的にこれらを活用して自身の将来像について考えて欲しいと思います。

ME3

研修旅行記

機械電気工学科3年生の学生の中から希望した25名は、2025年9月16日(火)から17日(水)の1泊2日で工場見学旅行として北九州地方へ行きました。

1日目は、日本製鉄株式会社九州製鉄所八幡地区を見学させていただきました。日本製鉄株式会社では、鉄鉱石と石炭から銑鉄が精製される高炉や、精製された鉄が熱間圧延される様子などを見学し、普段の生活や授業や実習で触れる鉄鋼材料の元が製造される現場の一端を知ることができました。

2日目は、株式会社安川電機 安川電機みらい館を中心に見学させていただきました。株式会社安川電機では、ロボットアームの高速で精密な制御を人と競うゲームで体感したり、そのロボットアームの製造過程で一部をロボットに任せる半自動化されている現場を見学しました。また、ご多用中にもかかわらず徳山高専OBの方にも見学コースに同行くださり、最後に質疑応答のお時

間を作っていました。

今回の工場見学旅行を通じて、学生たちは日本のものづくりを支える2つの企業を見学し、最先端の技術や現場の雰囲気を感じることができました。

この貴重な経験は、3年生の学生達が自らの将来を考えたときにその日からどのように行動するとより良い未来につながるか、きっかけや参考になるはずです。ご協力いただいた企業の皆様、誠にありがとうございました。



日本製鉄株式会社 九州製鉄所八幡地区



安川電機みらい館で学生がロボットと競う様子



株式会社安川電機 安川電機みらい館

ME4 研修旅行記

機械電気工学科4年生の学生が、2025年9月24日(水)から26日(金)にかけて、関西地方(大阪・兵庫)への研修旅行に参加しました。初日は、株式会社クボタ阪神工場とダイキン工業株式会社川製作所を訪問しました。クボタでは、

社会基盤を支える巨大鋼管の製造工程を見学させて頂き、高専OBの方たちとの座談会を開いて頂きました。ダイキン工業では、世界的な空調メーカーの最先端技術やものづくりの現場を高専OBの方々に直接案内して頂きました。2日目は終日自由研修となり、希望者は2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)を訪れました。未来社会のショーケースとして、各国のパビリオンや最新技術の展示を見学しました。最終日は、JRW日本吹田総合車両所と新明和工業株式会社宝塚工場を見学しました。吹田総合車両所では、鉄道の安全運行を支える車両のメンテナンスの重要性を学びました。新明和工業では、車載ハーネスのコンタ実装ロボットなど、普段目にすることのできない製品の製造現場を間近で見

学し、高い技術力に感銘を受けました。今回の研修旅行を通じて、学生たちは日本のものづくりを支える多様な企業を見学し、最先端の技術や開発現場の雰囲気を肌で感じることができました。この貴重な経験は、学生たちが自らの将来を考え、専門知識を深める上で大きな刺激となったはずです。ご協力いただいた企業の皆様、誠にありがとうございました。



株式会社クボタでの座談会の様子



新明和工業株式会社での製造見学の様子

2年生 クラス研修



ロープワーク



5月17日(土)に萩市で研修を実施しました。午前は萩セミナーハウスにて縄紐の結び方の講習を受け、協力しながら手順を確認しました。午後は数人ずつの班で城下町を巡り、美術館・博物館の見学に加え、萩城址や松陰神社周辺も散策しました。短い日帰り研修ではありましたが、班行動を通してクラスメイトとの交流が深まり、充実した一日となりました。

3年生 工場・企業見学



9月25日(木)に株式会社安川電機本社とBIZIA KOKURA (日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社、ウイングアーク1st株式会社、三菱総研DCS株式会社、エイム株式会社、株式会社情報戦略テクノロジー)へ見学に行きました。工場見学では産業用ロボットや自動化設備について学びを深め、自動化が現場で果たす役割を実感していました。また、BIZIA KOKURA では複数の企業が入居する環境を見学し、企業ごとの技術的特色や取り組みの違いを一か所で比較しながら把握することができました。単一企業の見学では得られない視点を得られたことで、多様な産業構造への理解が一層広がりました。

地域貢献

電子・情報・通信技術を小中学生に身近に感じてもらう

ための講座やイベントの補助として学生が活躍しました。 **ArduinoとLEDでプログラミング** 8月

IE×謎解き

高専ならではの手作りICT装置を使って謎解き！謎解きながらICT装置(micro:bitや電子回路)に自然と関心を持つ仕掛けになっていて、小中学生が年の近い高専生に質問できるようにしています。

Arduinoと高専特製LEDシールドを使って色を操る！自分好みのイルミネーションをプログラミングします。

周遊型ICT謎解き 8月

「公開講座DAY in 周南公立大学」のジョイント企画として、新しくなった大学校舎をめぐる謎解きを実施しました。周遊型ならではの構成にして、小学校低学年も楽しめたようです。



特製LEDシールド



ICT謎解き+電子工作 8月

謎解きに加え、ICT装置で使っている仕組みを使って作る「マスコットを置くと光って音が鳴る電子オルゴール」を工作します。自分で作ってみることでさらに理解や関心を高めます。



光るオルゴール

イベントへ出展 LED工作 9月

下松市のショッピングモールで毎年開催されている「周南ゆめ物語」でLEDを使った簡単な工作を行っています。

出前講座

micro:bitを使ったプログラミングとIoT体験 9月,2月

近隣の小学校(3校)で高専オリジナルの家の模型をプログラミングする授業を実施しています。LED、音、センサ、無線などIEがぎゅっとなつた講座になっています。令和3年から使っている家の模型は段ボール製から木製へアップグレードしました。



カラフルLEDランタン



シャカシャカ発電LED



4年生 研修旅行



9月下旬に関東地区に研修旅行に行きました。

1日目は東京科学大学大岡山キャンパスを訪問し、大学の紹介や研究室の見学、本校から進学したOBとの懇談会を行いました。2日目は日立システムズでの講義と簡単な演習、そして、富士電機東京工場で約3時間かけて業務の様子や施設の見学を行いました。この工場・研究施設の見学は、これからの進路選択の参考となりました。



ICPC こぼれはなし



特集記事「高専初の快挙!世界最高峰の大学対抗プログラミング競技大会へ出場」本編では書ききれなかったことを紹介します。ICPC世界大会出場はとても貴重な機会なので、少しでも雰囲気が伝わり、学生のみなさんが「何かに挑戦してみようかな」と一歩踏み出すきっかけになれば幸いです。

KOSENってグローバル?

チームTシャツの背中には「Tokuyama Kosen」とプリントされています。この「Kosen」がきっかけで、ちょっと国際交流しました。女子学生スタッフが「アニメや漫画を見るから少し日本語を知っている。NARUTO、呪術廻戦…」と言ったので、「私たちの学校は呪術廻戦の学校と同じ高専って名前だよ」と教えると「Tシャツの写真を撮ってもいい?」と頼まれました。実は博物館見学の時にも「コウセンってなに?」と話しかけてきたチームに高専について説明したのですが、その時も最後に「Tシャツの写真を撮ってもいい?」と聞かれたので、もしかしたらそれもアニメの影響だったのかもしれません。



競技中の様子

本番は選手以外会場に入れません。コーチは会場の外にある端末でチームの様子(Webカメラの映像とPC画面)を確認することができます。また、プログラムがAC(受理)だった前後4,5分間のWebカメラの映像が保存されていて、喜ぶ様子を見ることができます。徳山高専は何度もWA(誤答)だった問題がACしたときに大きくリアクションしたのですが、その時だけ映像がフリーズして残ってなくて学生は残念そうでした。

日本チームとの交流

高専以外のチームは2回目の世界大会出場であったり、コーチが世界大会経験者であったりして、色々教えてもらいました。また、学生たちはコラボレーションツールで大会前から交流していて、みんなでワイワイ騒ぐという感じではないけれど、それぞれが仲良く穏やかに交流する感じ(高専でもよくみかける光景・雰囲気)で、初出場の徳山高専チームも楽しく過ごすことができました。競技プログラミングの慣習で、ハンドルネームと本名の両方を使ってうまく会話していました。



アゼルバイジャンのご飯はおいしい?

大会中の朝食と夕食はバイキング形式でした。トルコ料理に近く、おいしかったです。ヨーグルトが豊富で、中東らしい甘いデザートもありました。見たことないものもいくつかあって、日本チーム内で誰かが食べると「それおいしい?」と聞きながら、みんなで色々なものにチャレンジしました。なかでも、ラタトゥイユのような夏野菜をオリーブオイルで焼いたものが一番人気で「これはとりあえず間違いない」と毎日食べていました。また、最初のころ、数人が「りんごと洋なしがまるごと(カットされずに)置いてある」と戸惑っていましたが、「ヨーロッパでもよくあるし、そのまま食べられるよ」と教えたところ、すぐに順応し数日後には自然に食べていました。今まで生きてきた中で一番おなかの調子がいいという学生もいて、日本人の口に合う食事でした。



数独



ブラインドプログラミング



みんなで夕景を眺める



土木建築工学科

Civil Engineering

Architecture

窓から見える景色、すべてをつくるのが CA !

成長する学生
クラス・授業の風景

1~3年次まで土木と建築の両方の内容、測量のように共通する内容を学びます。
4年次からは自分自身の高めのたい内容に応じて、土木、建築系に分かれ、応用へ発展していきます。
3年次には本学科独自の伝統である測量合宿に、また5年生では集大成の卒業研究に挑みます!

常に**デザインする・つくる・発信**しています!

集中測量実習in 油谷青少年自然の家 CA50期

1年生:建築デザイン概論
(学内の特異別に歩行実験調査中!)



2年生:設計演習II(演習)
(みんなでRC造3階建てのプランと格闘中!)



2年生:現場見学
(Minamoaを見学しました)



測量実習
(合宿まで校内で練習中!)



4年生:工学デザイン(実習)
(木造住宅の軸組模型)



4年生:CAD応用(演習)
(3Dモデル・CGで構造物をつくる)



測量合宿
(みんなでビーチ集合!思い出がいっぱい!)



5年生:工学実験
(←都市を解析・計画する)
(顕微鏡観察→)



活躍中!
土木建築工学科のHP



<https://tokuyamakosen-edu.note.jp/all>

5年生:卒業研究発表会
全員が1年間の研究成果を発表!
指導教員の先生、研究室の仲間と
一緒に調査・制作などを行い、
原稿無しの発表に挑みます。



Look Back 2025

元気な専攻科生 ・ 研究生の紹介

環境建設工学専攻 (EC) へ進むと、学士 (工学) = 大学卒業です。
専攻科生は、学会発表、全国高専デザコン、インフラテクコン、Virtual Design World Cup、、、様々な分野で、リーダーとなり活躍しています！

土木学会中国支部研究発表会

今年度の支部大会は徳山高専が主管校となり、たくさんの参加者・関係者をお迎えし、教職員、5年生のサポート学生が一丸となって大盛況でした。



英語力・プレゼン力を発揮！

第15回
Virtual
Design
World
Cup

専攻科2年生
中村元介くん
工藤瑞希さん
永田晴輝くん

都市環境計画学 (授業) で国際デザインコンペに取り組み、英語で素晴らしいプレゼンを行いました。惜しくもグランプリは逃がしましたが、本科チーム (審査員賞) と共にノミネート賞を受賞しました！



英語力・プレゼン力を発揮！



工藤 瑞希さん
(コンクリート工学研究室)
専攻科2年
若手優秀発表賞

齊藤 遥奈さん
(鋼構造学研究室)
専攻科2年
優秀発表賞2つ！
(計4回)



企業展示交流コーナーの様子
多くのOB・OGも参加され、大いに盛り上がりました！

AAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA

今年は研修旅行は沖縄！ CA4

AAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA

本校では専門分野に関連する企業見学や構造物・都市の見学を行う旅行形式の研修を行っています。
2025年度の研修旅行では、9月末に沖縄を訪れ、ジャングルや美ら海水族館などバックヤードを含め見学してきました！



迫り満点！



入れば楽しい！出れば楽しい！

沖縄の魅力を堪能！

自然と融合する構造物とは？



美味しい！

最新の施設を見学、大自然を感じてきました！

CC

共に活動する教員の紹介

学生のみなさんと一緒に活動し、成長する本学科の教員を紹介します！

Q: 担当科目と研究分野は？
A: 都市計画、道路工学、建築生産論、設計演習基礎など…

Q: 徳山高専の良いところは？
A: 土木と建築を同時に教えるもので、低学年の設計教育では、3次元の空間設計の素養を身に付けさせる教育上の工夫がある。土木系・建築系いずれにすすむにしても、空間をつくる視点を持つことができる。



目山 直樹 先生

徳山高専土木建築工学科06期生
専門：都市計画

Q: 授業以外の校務は？
A: 2025年度は、テクノ・リフレッシュ教育センター長と知的財産委員長です。

Q: 高専生、中学生へのメッセージをお願いします。
A: 15歳で専門分野を選択することは勇気がいる。けれども、幅広い専門分野を学ぶことで、ベースとなる専門性がかたちづくられ、自分自身の「専門」がみえてくる。専門家になり、技術を持って社会に問うことはやりがいのある仕事です。

モットー
「気づいたものがやる」

徳山高専生の挑戦!

継続は力なり

全国高等専門学校プログラミングコンテスト

第36回高専プロコン競技部門で第3位、国際大会出場へ

第36回全国高等専門学校プログラミングコンテストの本選が10月に島根県松江市の島根県立産業交流会館くにびきメッセで開催されました。徳山高専のチーム「ナブラ」は競技部門に出場し、3位に入賞しました。さらにチーム「ナブラ」は令和8年3月にベトナムのハノイで開催されるNAPROCK第17回国際プログラミングコンテストに出場します。

情報電子工学科5年

山崎 秀太

本年度の競技部門は、正形式のフィールド上にエンティティと呼ばれる数字が配置され、同じエンティティが隣り合うように回転操作を繰り返すというルールでした。昨年度に引き続き、ヒューリスティック色の強いルールであり、多くのチームが昨年の体験を通して力をつけていました。私たちのチームは、計算に

GPUを使用する等の都合で、プログラムを仮想環境で実行していました。また、問題・解答の送受信を自動的に行うように実装していたこともあり、ネットワーク構成が複雑になり、本番では通信トラブルに悩まされることとなりました。予選は第5位、準決勝は第2位という結果で、どちらも限々の通過となりました。特に準決勝は問題の受信がかなり遅れ、あと僅か数秒のところでの回答となりました。決勝では通信トラブルの影響は少なく、第3位という結果を残すことができ、また、今年度から別開催となったNAPROCK国際プロコンにも出場させていただける運びとなりました。

国際大会に向けては、トラブルの無いようネットワーク構成を単純化するとともに、より良い解を求められるよう改善を続けていきたいと思っております。

情報電子工学科4年

門原 裕大

私たちは高専プロコンの競技部門に出場しました。今年の競技課題は、盤面を操作してペアを素早く作るというもので、私は主にプログラムのテストを担当しました。本選1日目は、思うような結果を出せませんでした。持ち込んだ中で最も高性能なPCが通信不良を起こし、本来の実力を発揮できないまま、なんとか予選を通過しました。本選2日目の準決勝でも同じ不具合が発生しました。準決勝では予選よりも大きな盤面が出題され、私が操作していたPCでは計算時間がぎりぎりでしたが、制限時間4秒前に回答を送信できたことで、辛うじて勝ち進むことができました。決勝では高性能なPCも無事に動作し、本来の力を出し切ることができた結果、3位という輝かしい成績を収めることができました。



とことができました。

今年度はNAPROCK国際プロコンが同時開催ではなく春休みの開催となり、私たちが招待を受けました。そこでも良い結果を残せるよう、今回の経験と反省を生かして準備してまいります。

機械電気工学科2年

安藤 朋希

私は今回のプログラミングコンテストで機械学習を活用し、問題解決のヒントを提示するシステムの構築をしました。

本番までにいい成果が出ず、役に立てなかったのが国際大会では磨きをかけて成果を出したいなと思っています。開発にあたって様々な論文や手法を読む過程で今まで知らなかったことを知ることができとても学び多い体験になっています。個人的にいい解が出るときの法則や規則性などがデータとして見えてくると面白いなと思います。まだまだ未熟者ですが、最大限チームに貢献できるように頑張ります。

デザコン2025 in 福井 構造デザイン部門2年連続ダブル受賞！

土木建築工学科 助教(指導教員) 山根 達郎



作品載荷中の「鳳嶺」



作品架設中の「凜永明」

近年のデザコン構造デザイン部門では紙を使って設計した橋梁模型の強度と軽さを競っています。今年は紙による「斜橋」の設計が話題でした。斜橋とは、橋の軸(中心線)が川や道路などを真っ直ぐ(直角)に渡るのではなく、斜めに横切る橋のことです。直橋に比べて、左右の支点で生じる反力が不均等になりやすく、ねじれや横倒れが起きやすい、設計難易度の高い構造形式です。

そして本年度、福井県で開催されたデザコン構造デザイン部門のテーマは「stylish」。

主な設計条件は、①指定されたケント紙と木工用ボンドのみを使い、支間長900mmの斜橋を設計すること②分割された2つの部材を支間中央で接合して1つの橋とすること③橋の上面中央に載荷する60kgの荷重に耐えられること、といったものです。ねじれや横倒れを起こさずに、いかに軽量で「stylish」な橋を製作するか、学生たちは試行錯誤を積み重ねてきました。

その後、例年より少し早めの9月上旬に開催した校内予選では、合計3チーム(17名)の大激戦となりました。どのチームも時間がない中で、誰が本選に出場しても優勝が狙えるようなハイレベルな設計でした。校内予選の結果、「鳳嶺(ほうらい)」と「凜永明(りねい)」が本選出場作品として選ばれ、本選までさらなるブラッシュアップを行うことになりました。

「鳳嶺」は薄い板を組み合わせて製作したアーチ型の構造形式で、昨年度の本校優秀賞作品である「魁兜(かいかぶと)」と同様に載荷点から下部に伸びる2本の圧縮材を介して構造全体に荷重を分散させるスタイルをとり、本選作品ではわずか135gという軽さを実現しました。また、「凜永明」は箱型断面の2本の圧縮材と下部の引張材を組み合わせたシンプルなたラス構造で、本選では159gとこちらも軽量な作品となりました。こちらは一昨年の本校優秀賞作品である「翼棟(よくれん)」に近い構造形式ですが、そこから130gもの軽量化を遂げています。

このようにいずれの作品も、これまでの先輩方の積み重ねの上にさらなる工夫を重ねて独自の進化を遂げたことが強く感じられる作品となりました。そして作品の完成度もさることながら、毎年の特徴でもある徳山高専チームの明るさも本選会場を大いに沸かせることとなりました。

そして本選では、「鳳嶺」が全58作品のなかで第3位となり優秀賞を受賞、「凜永明」が第4位で企業賞(日刊建設工業新聞社賞)を受賞しました。

た。昨年度も3位、4位のダブル受賞で、2年連続のダブル受賞となりましたが、本年度は昨年以上に総合得点で1位の作品に肉薄しており、学生たちは喜びもありながらも悔しさも大きい大会となりました。一方でこの悔しさがバネとなり、今後の大きな成長に繋がることと期待しています。これからの学生たちの更なる成長と活躍に目が離せません！



受賞後の集合写真

第6回全国高専インフラテクコン2025

5年ぶりのグランプリ奪還！さらにダブル受賞

土木建築工学科 教授(指導教員) 海田 辰将

第6回全国高専専門学
校インフラマネジメント
テクノロジーコンテスト202
5において、環境建設工学
専攻2年 齊藤遥奈さん、
土木建築工学科5年 兼坂
亜季さん、同4年 鶴田こ
ゆきさん、同3年 石津雅
さん、飯田ひかりさん、
佐古柑菜さん、弘中蓮さ
ん、住出若菜さんの提案「い
つでも、どこでも、何度で
も。」が19高専34作品の中
からグランプリ(最優秀賞)
に選出されました。

官学共同研究に発展、そ
の後3年間で設計・制作・
実装を完了し、2026年
4月から本格運用を開始
する予定です。

を引き出すため、往年の名
作ゲーム「SimCity」
にヒントを得たシンプルな
ゲームフィクションの要素
と3次元都市データPLA
TEAUといったDX要素
を組み込んだ次世代のイン
フラ通報システムへの改修
提案です。

審査員講評より、地域
の建設業界と若者を現場
見学で繋ぐ継続的な取組
と社会実装が完了し、その
先の全国展開に向けた着
実な進展状況等が高く評
価されました。同コンテ
ストでの徳山高専のグラン
プリ受賞は5年ぶり2回目
となります。

また、土木建築工学科
3年 國富彩花さん、浅田
美紅さん、河村小夏さ
ん、大田和さん、茅原
琴海さんの提案「公共
インフラをゲームと現
実同時に発展大作戦☆
JKがサポートしちゃうぞ
」についても特
別賞(チャレンジ賞)に
選ばれました。こちら
の提案は、周南市で運
用されているインフラ
通報システム「しゅう
なん通報アプリ」につ
いて、若い世代の関心

今後、両チームは3月6
日に日本科学未来館で開催
される表彰式&交流会に出
席し、プレゼンを披露する
予定です。両チームのプレ
ゼン動画はインフラテクコ
ン公式HPよりご視聴頂けま
すのでぜひご覧ください！

本提案は、担い手不足
が深刻化する県内建設業
の「人」に関する問題に着
目し、土木建築工学科で年
間15〜20回実施されてい
る少人数の現場見学への参
加経験を活かした現場見
学マッチングサイト「フラ
Navi for やまぐち」の
社会実装と水平展開に
関するアイデアです。フラ
Naviは、2022年の同
大会で地域賞を受賞した
齊藤さんらのアイデアが女
子学生チームと山口県との

「フラNavi for やまぐち」
次世代インフラ通報システム
「townぱれっと」



高専GCCON2025準優勝 初出場&トリプル受賞♡

土木建築工学科 教授(サポート教員) 海田 辰将

GIRLS SDGSXT
echnology Conte
st(高専GCCON)は、S
DGsと女性活躍推進の観
点から女子高専生が日頃
の活動を基とした社会課
題解決のための取り組みを
提案し、形にすることで女
性技術者・研究者の挑戦
と活躍を後押しする全国
高専コンテストです。

高専GCCON2025で
は37高専89チームがエント
リーしており、徳山高専
チーム「ひかみこちゃんね
る」(環境建設工学専攻2
年 齊藤遥奈さん、土木建
築工学科4年 鶴田こゆき
さん、3年 石津雅さん、
飯田ひかりさん、佐古柑
菜さん)が本校として初
出場ながら優秀賞(第2
位)、企業賞(ANAグルー
プ賞)、ファイナリスト賞
をトリプル受賞する快挙を
達成しました。

出場し、プレゼンテーショ
ン審査に臨みました。
チーム「ひかみこちゃん
ねる」は、これまでに現
場見学マッチングサイト
「Fla Navi for やまぐ
ち」を開発・実装しており、
今大会では地域の建設業
における女性技術者の確
保↓育成↓活躍を加速
させるために女性ユーザー
に特化した「Fla Navi
for Girls」のアイデ
アを発表しました。「ひか
みこちゃんねる」は本選の
舞台で動画や小芝居を織
り交えた全力プレゼンを披
露し、審査員からは、圧
倒的なプレゼンテーション
力に加え、30回以上の現
場見学経験に基づく実践
的なアプローチが絶賛さ
れ、「私たちも現場を大切
にする企業であり、深く
共感した(ANAエンジニ
アリング部門)」との言葉
と共に企業からも高く評
価されました。「ひかみこ
ちゃんねる」の本選プレゼ
ンテーション動画は高専
GCCON2025の公式サ
イトにアップされますの
で、ぜひご覧ください。
今後、学生たちはフラ
Navi for Girlsの
社会実装を目指して活動
を継続し、担い手不足に
悩む他分野への展開も期待
されています。

本大会では、書類選考
とオンライン面接選考を通
過した12チームが12月14日
(日)に東京大学伊藤謝恩
ホールで開催された本選に

企業との交流会(ポスターセッション)



受賞した「ひかみこちゃんねる」

受賞した「ひかみこちゃんねる」



徳山高専から全国、世界へ！建築系コンペの挑戦！

第15回学生BIM&VRデザインワールドカップ 第4回「POLUS木造住宅インターハイ」で快挙！

土木建築工学科 准教授 **河野 拓也**

【舞台に立つ】挑戦することで見える世界がある。コンペ・コンテスト：学生が専門分野の知識やアイデアを競い合うイベント。設計、アイデア、技術などテーマはさまざま、企業や団体が主催します。今年度、土木建築工学科の学生は、全国の高校生、世界の大学生と競うコンペ【舞台】に立ち続けました。

令和7年11月20日、品川インターシティホールで、第15回学生BIM & VRデザインワールドカップの最終公開審査が行われました。世界5カ国24校から集まった65作品の中から、徳山高専の2チームが最終ノミネート12作品に選出さ

れました。その結果、土木建築工学科3年 中川沙羅さん、大島光葉さん、大田和さん、茅原琴海さんによる作品「Patasky」が審査員特別賞を受賞！専攻科2年 工藤瑞希さん、永田晴輝さん、中村元介さんによる作品「MEGURU」がノミネート賞を獲得しました。審査員特別賞の「Patasky」は、未来の移動体験をテーマに、動物型ロボットによる移動と、太陽光や摩擦熱を活用した環境にやさしいシステムを提案。移動そのものを楽しむ新しい世界観を表現しました。両チームは、英語での映像制作とプレゼンテーションと

いう大きな挑戦をやり遂げ、世界の舞台で堂々と発表。世界の大学生大学院生達を相手に高校生の審査員特別賞は快挙。この偉業は、彼女たちの努力と、英語指導や映像制作に協力いただいた先生方・同級生・関係者・チーム徳山高専の支えによるものです。「自分たちらしく、楽しもう！」というチームの信念と多くの方々への感謝が、世界に届いた瞬間でした。

また令和7年5月に開催された第4回「POLUS木造住宅インターハイ」(高等学校・工業高等学校・高等専門学校等建築デザインコンペティション)において、土木建築工学科3年前田悠翔さん、西岡潤さん、松橋隆彦さんの作品「みかんを司る家族の家」が、造形・造作部門 最優秀賞を受賞しました！全国72校から寄せられた187作品の中で、徳山高専悲願である【最優秀賞】頂点の栄冠に輝きました。作品コンセプトは、日本の斜面地を活かしたみかん畑と共存する家をテーマに、蜂の巣をモチーフにした六角形のハニカムデザイン



第15回学生BIM&VRデザインワールドカップ



第4回「POLUS木造住宅インターハイ」

した六角形のハニカムデザイン

期待ください！

高専英語プレゼンへの挑戦

シングル部門全国へ

一般科目 准教授 **上田 真梨子**

10月18日と19日に呉高専にて中国地区高等専門学校英語弁論大会が開催されました。暗唱部門に情報電子工学科1年の岩井凜菜さんと土木建築工学科2年の松永好夢さん、シングルプレゼン部門に情報電子工学科3年の木村晏野さんと山本亮太さんが出場しました。岩井さんは「白雪姫」、松永さんは「ぐりとぐら」の一場面を題材に選び、松永さんは2位に入賞しました。木村さんは「水の保全とIT技術」、山本さんは「自動車燃料としての水素エネルギーの可能性」をテーマにプレゼンを披露し、山本さんは2位に入賞して、1月24日に東京で行われた全国大会に出場しました。

全国高専英語プレゼンのチーム部門予選には、土木建築工学科2年の大井花凛さんと坂東海音さん、情報電子工学科2年の富永陽愛さんが「山口県の魅力と国際交流」をテーマに挑戦しました。本選には進めませんでした。英語の表現力を磨くいい機会となりました。



中国地区英語弁論大会 岩井・松永・山本・木村さん



チーム部門 坂東・富永・大井さん

第60回全国高等専門学校体育大会

祝優勝 水泳部の活動報告

水泳部顧問 桑嶋 啓治

徳山高専水泳部は、鹿見島県の鴨池公園水泳プールで開催された全国高等専門学校水泳競技大会に出場し、団体総合で第3位という好成績を収めました。大会を目標して日々練習に励んできた選手たちの努力に敬意を表します。

今回の大会では、4×100mメドレーリレーで岡・牛見・新部・森田の4選手が準優勝を果たしました。さらに、牛見元春選

手は1000mと2000m平泳ぎでダブル優勝を達成し、特別表彰も受賞しました。森田大地選手は50mと1000m自由形でダブル優勝、富永海里選手は1000m自由形で3位、100mバタフライで準優勝と、今年も多くのメダルを獲得しました。その他の種目でも多くの選手が予選を突破し決勝に進出するなど、素晴らしい活躍を見せてくれました。特に牛見選手は、学業と両立しながら

5年間にわたり水泳に打ち込み、インターハイにも出場するなど、その功績は大変立派です。この全国大会は、各地区大会を勝ち抜いた選手が集う大会ですが、今年も中国地区の活躍が目覚ましく、上位を独占しました。団体優勝は神戸高専でしたが、準優勝は呉高専、第3位が徳山高専、第4位が米子高専という結果でした。中国地区大会では米子高専が優勝、徳山高専が準優勝、呉高専が第3位でしたが、全国大会では順位が入れ替わるといふ結果になりました。これは、地区全体の競技レベルの高さに加え、学校の枠を超えた選手同士の交流や応援が影響したものと思われま



たいものでは、中国地区の全選手で円陣を組むなど、良い雰囲気の中でレースに臨むことができました。この伝統を今後も続け、地区全体を盛り上げる存在として、徳山高専水泳部が

さらに発展していくことを願っています。最後に、本年度をもって水泳部顧問の杉村敦彦先生がご定年を迎えられます。長年にわたり徳山高専水泳部の柱として運営され、水泳部を発展させて来られました。また、山口県水泳連盟の役員としても活動され、国体やインターハイなど県外大会でも役員として県水連に多大な貢献をされました。おそらく、さらば博記念公園水泳プールの記録室滞在時間は、山口県で一番長い人物ではないかと思われま



水泳部



全国大会出場チーム



ハンドボール部



野球部



卓球部



陸上部



サッカー部



バドミントン部

令和7年度 就職・進学先一覧

本科

学科	機械電気工学科	情報電子工学科	土木建築工学科
就職先	旭化成(株)	アイテック阪急阪神(株)	青木あすなろ建設(株)
	関西電力(株)	(株)NTTデータMSE	あおみ建設(株)
	鋼鉄工業(株)	(株)NTTデータフロンティア	川田工業(株)
	サントリーホールディングス(株)	大村印刷(株)	(株)鴻池組
	新明和工業(株)	(株)科学情報システムズ	(株)シーエム・エンジニアリング
	ダイキン工業(株)	独立行政法人国立印刷局	ショーボンド建設(株)
	大晃機械工業(株)	サントリー食品インターナショナル(株)	新日本空調(株)
	武田薬品工業(株)	JFEエンジニアリング(株)	大成建設(株)
	帝人(株)	四国電力(株)	(株)竹中工務店
	(株)東芝	島津プレジジョンテクノロジー(株)	中国電力(株)
	東ソー・エスジーエム(株)	ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)	中電技術コンサルタント(株)
	東ソー・ハイテック(株)	ソフトバンク(株)	東海旅客鉄道(株)
	(株)トクヤマ	ダイキン工業(株)	西日本高速道路(株)
	日本ゼオン(株)	東海旅客鉄道(株)	(株)乃村工藝社
	富士フイルムホールディングス(株)	東ソー情報システム(株)	(株)横河ブリッジ
	フードテクノエンジニアリング(株)	トーテックアメニティ(株)	宇部市
	Primetals Technologies Japan (株)	(株)トプコン	下松市
	ブラザー工業(株)	(株)日立アドバンストシステムズ	柳井地域広域水道企業団
	(株)三井E&S	(株)日立情報通信エンジニアリング	周南市
	三菱ケミカルグループ(株)	富士電機(株)	広島市
三菱重工業(株)		廿日市市	
三菱電機(株) 電子通信システム製作所			
山口県産業技術センター			
進学先	徳山工業高等専門学校専攻科	徳山工業高等専門学校専攻科	徳山工業高等専門学校専攻科
	広島大学工学部	北海道大学工学部	横浜国立大学都市科学部
	九州大学工学部	東京大学工学部	豊橋技術科学大学工学部
		横浜国立大学理工学部	三重大学工学部
		長岡技術科学大学工学部	大阪大学工学部
		三重大学工学部	広島大学工学部
		大阪大学工学部	九州大学工学部
		香川大学創造工学部	東京都立大学都市環境学部
		九州工業大学情報工学部	滋賀県立大学環境科学部
		東京都立大学システムデザイン学部	
その他		徳山工業高等専門学校研究生	

専攻科

専攻	機械制御工学専攻	情報電子工学専攻	環境建設工学専攻
就職先	西日本旅客鉄道(株)	(株)西京銀行	ヴェオリア・ジェネッツ(株)
	Primetals Technologies Japan (株)	(株)ドコモCS中国	(株)シーエム・エンジニアリング
	メタウォーター(株)	(株)日立ソリューションズ	日本工営(株)
		(株)日立ハイテク	日本工営都市空間(株)
			復建調査設計(株)
			国土交通省中国地方整備局
(進学院先)	東京科学大学物質理工学院	奈良先端科学技術大学院大学情報科学領域	
		広島大学大学院先進理工系科学研究科	
		九州工業大学大学院生命体工学研究科	

今年就職・進学状況

社会人になる意識

将来の自分の姿を考える

5年担任 機械電気工学科 石田 浩一

令和7年度の機械電気工学科の進路状況は、学生数が35名で昨年度より10名も少ない学年となりました。

最初に希望を取った時点では就職が多く、進学で迷っている学生が少数でした。進学で迷う学生には何がしたいのかを面談等で聞くことで進路をはっきりさせ、最終的に就職29名、進学6名となりました。今年度の企業の採用活動は、ここ数年変わらず採用の意欲が高く、早くから求人案内がありました。特にインターシップの案内から人事担当者が来校されており、人材の発掘をしたいという強い意志を感じました。求人数も600社程度あり、学生に選んでもらうにはかなり厳しいかなと感じる所です。今年度の企業の採用活動については、1月から大手企業も含めWebからのエントリーが始まり、2月からマッチングが行われる状況になっています。そのため例年であれば3月に求人が出そろわずに、3月までにマッチングが終了する企業もある状況です。ただ、最後の内定が9月であったのでなかなか厳しかったと思います。この原因として、学生に就職し



なければとの思いはあるもの、なぜその会社に行くのか、社会人になる意識はあるのかと言った基本的な考えが薄かったように感じます。企業の人事担当の方からも、大学生よりも社会人になる意識が薄いと感ずると言われています。在校生には、卒業後就職ではなく、何をするために勉強し、卒業するのかを今一度考えてもらいたいと思います。次に進学については、専攻科4名、大学2名であったため、比較的問題なく決まっただけです。全体を通してですが、就職、進学どちらに進むとしても面接に対する準備は大事だと感じています。面接では自分がどのような人間なのかをアピールすることが非常に重要です。高専生活で活動はしているけれど、話せる内容が少ない・上手に話ができない学生が増えて来ていますが、高専生活の中で何が出来たのかを伝える事が大事です。少しでも自分をアピール出来るように高専生活を充実させて下さい。

自分のやりたいことを実現するために 進路を自分で切り拓こう

5年担任 情報電子工学科 高山 泰博

令和7年度の情報電子工学科5年生の卒業予定者は35名(男子27名、女子8名)で、そのうち就職希望者は20名、進学希望者は15名(留学生1名含む)のうち専攻科希望者が5名でした。

令和7年度の情報電子工学科5年生の卒業予定者は35名(男子27名、女子8名)で、そのうち就職希望者は20名、進学希望者は15名(留学生1名含む)のうち専攻科希望者が5名でした。例年は進学希望者が3割程度ですが、今年度は4割とやや多めでした。大学編入希望者は4年生以前から希望が明確で、早い時期から進学に向けて勉強を開始していたようで、難関大学を含む国公立大学に10名が進学予定です。高専ならではの複数の受験機会を活かした編入試験の受験状況だったと思います。

一方で、専攻科進学予定者は、4年後期になつてから進学を決めた人もいますが、普段の学習をしっかりと進めたことで希望者全員が進学予定です。就職については、今年度は情報電子工学科に656社から求人票をいただきました。従来からの情報系・電子系の会社に加えてインフラ系など多様な企業からの求人がありました。

4年夏のインターシップには進学希望者を含めてほぼ全員が参加しました。2名が早期選考でインターシップ先の企業から内々定を得ました。また、冬休み中に1dayインターシップに参加したり、3月の前半に会社見学会などに参加したりした学生が複数いました。ほとんどの就職希望



者は、概ね3月中にはエントリーシートなどを希望先に提出していました。

4年次の11月頃から放課後に卒業生の在籍企業の会社説明会があり、先輩たちから「仕事をする」とは「実際の仕事の様子」、「求人票を読むポイント」などの情報収集の機会となりました。

就職希望者の多くは学校推薦で就職試験を受けますが、数人が自由応募で(推薦と並行してではなく、本命の応募先として)就職試験を受けました。ここ数年の傾向かと思えます。

就職希望者数に対し30倍以上の求人でしたが、面接時になぜその企業に応募したか、どんな仕事をしたいかをしっかりと伝えられないと、採用につながらないケースがあります。また、学生時代に自分がどう過ごしてきたかを自分の言葉で説明できないと、エントリーシートを書くのに苦労したり、面接の準備に困ったりします。

工学系の学校なので、課題に追われたり、学校と家の往復で毎日過ぎて行ったりするとは思いますが、その中で自分が将来何をしたいかを見つける努力が必要です。これは就職だけでなく、進学でも同様です。自分の将来を自ら切り拓くことを意識して学校生活を送ってください。

正しい情報の選択と 自身に向き合う大切さ

5年担任 土木建築工学科 海田 辰将



土木建築工学科5年生43名(男子23名、女子20名)全員の進路が決定したのはなんと夏休み中(9月末)のことでした。

民間就職は19名であり、県外企業や大手企業への就職志向が際立つ結果となりました。求人数は481社に達し、建設業の担い手不足の現状から大幅な賃上げと福利厚生充実をアピールする企業が目立つ中で、学生たちは迷い多き就職活動を展開しました。夏期実習が終わった時点から早期選考のアプローチが始まりましたが、夏期実習の経験を踏まえて、改めて企業研究(1 dayや企業訪問)を重ね、自身の将来に向き合いながらじっくり意思を固める姿勢が顕著だったように思います。

公務員就職は8名と、例年に比べて増加しました。こちらは民間就職と真逆で6名が県内自治体、残り2名も広島県内と、地元または隣県への希望が集中しました。しかし、採用試験の方法や時期も自治体によって全く異なることから、公務員を志望する学生も大学編入と同じように、前年度の最新データに基づき、併願先を早期に絞り込み、絞った対策が求められました。

進学は大学編入9名、専攻科6名と

なり、全ての学生が第1〜2

志望先に合格しています。特に、大学編入については同じ志を持つ仲間と協力して勉強会を開催し、勉強方法や編入情報を共有しながら高いモチベーションを維持するなど、ここでもクラスの仲の良さが発揮されました。

全ての進路活動に言えることですが、4年生に進級した瞬間から膨大な情報が流れ込んできます。これから進路活動に臨む学生の皆さんは「●●なら××さえやっておけば大丈夫」などといった「都合の良い情報」ではなく「正しい情報」を取捨選択することを強く心がけてください。担い手不足や定員削減などを背景として採用選考や入試の方法も過渡期にあり、毎年変わります。正しい情報を持って自身の将来に向き合い、ブレない目標を定め、瞬間最大ではなく持続的に行動・努力する姿勢が、後悔の無い進路選択に繋がります。

近年、就職間もない卒業生からの転職・再就職支援の相談が増えています。売り手市場の中で就職したはずの先輩たちから「ちゃんと企業研究しておけばよかった」との声が多く聞かれるその理由を考えてみましょう。

専攻科の就職・進学活動状況

専攻科長 機械電気工学科 福田 明



令和7年度(2025年度)の専攻科修了予定者数は、機械制御工学専攻(以下、MC)4名、情報電子工学専攻(以下、CE)7名、環境建設工学専攻(以下、EC)6名です。就職希望者数/進学希望者数は、MCは3名/1名、CEは4名/3名、ECは6名/0名で、就職・進学率は100%でした。

就職活動では、就職希望者13名のうち4名が学校推薦、9名が自由応募でした。また、就職希望者のうち9名が専攻科1年次の長期インターシップ派遣先の企業やその関連企業に就職内定となりました。一定の基準を満たしたインターシップで企業が得た学生情報を採用選考活動に使用できるようにになり、その影響が数字として表れた結果となりました。今年度の専攻科修了生向け求人数は、MC641件、CE614件、EC442件でした。専攻科生の就職活動は大学学部生と基本的に同じ土俵での選考となり、先述の通り本科に比べると自由応募の割合が高くなっています。近年は企業の採用意欲が高い水準を維持しており、今年度も早期に内々定が出る

ケースが多くみられ、複数の企業に合格する学生もいました。大学院進学では、進学希望者4名のうち3名が学校推薦、1名が学力入試での合格でした。学校推薦の3名は、長期インターシップ派遣先の大学に応募し、合格となりました。また、高専専攻科修了生対象の推薦入試制度を活用したケースがありました。

専攻科を修了した学生は、企業から大学院からもその資質を高く評価されており、多種多様な道が広がっています。上述のように、長期インターシップは就職においても進学においても進路選択に大きな影響があることが伺えます。長期インターシップの目的は、自身の専門分野に関する知識の程度を確認し、目指す技術者像をより明確なものにすることであり、必ずしも進路選択だけに目的ではありません。しかし、専攻科への進学を希望する学生諸君は、本科のうちから将来を見据え、専攻科に入学する前から長期インターシップを有効に活用する準備をしておくことをお勧めします。

わたしの就職進学STORY

希望する会社や大学に就職・進学した学生はどんな学生生活をおくってきたのか？今年度卒業・修了する学生に徳山高専の5年間・7年間を振り返ってもらいました。徳山高専生等身大のリアルストーリーと後輩へのメッセージです。

機械電気工学科 倉本 比呂

研究室 池田研究室(熱工学研究室)
就職先 ブラザー工業株式会社

私はトレーニングが好きで部活動を続け、海外への関心からトビタテに応募しました。自分の意志で挑戦を重ねたことは、大きな自信につながりました。就職活動や資格試験でも、不合格を必要以上に悔やまず、次に生かす姿勢が大切だと感じています。得意不得意にとらわれず、一歩ずつ前向きに進んでみてください。



後輩に一言

挑戦が大切

就職までの道のりを紹介！ 倉本さんのリアル STORY

- 本科1年**
 - 4月 中学からの継続で陸上競技部に入学し投擲を専門にする。
 - 7月 コロナ禍で在宅授業を経験。
 - 中国高専代替大会で砲丸投げ・円盤投げで最下位となる。
- 本科2年**
 - 7月 中国高専大会にて砲丸投げ2位となり全国高専の切符を得る。
 - 8月 総合実地演習で新立電機に行き、ロボットに興味を持つ。
 - 11月 第2種電気工事士と危険物取扱者乙種に挑戦。
 - 2月 海外に興味を持ち、トビタテ留学Japanに応募。
- 本科3年**
 - 5月 トビタテ留学Japan高校8期生として採用される。
 - 7月 中国高専にて円盤投げが3位となり2種目で全国高専出場
 - 技能検定フライス盤作業3級合格。
 - 12月1月 就活イベントに参加し、就職先について考え出す。
 - 3月 提携校の香港IVEに留学する。
- 本科4年**
 - 7月 技能検定機械検査作業3級合格。
 - 8月 インターンで三菱電機名古屋製作所に行く。
 - 10月 演出部署長として高専祭ステージの照明を担当。
 - 11月 成績最下位で研究室の選択権が無く、池田研に所属。
 - 2月 就活開始。
 - 3月 1社目の川崎重工工業落ちる。
- 本科5年**
 - 4月 卒業研究でKOSEN13衛星の熱解析を担当する。
 - 6月 3社目の本田技研工業にも落ち、ロボットをつくるではなくロボットと共に働く職場に興味を持つ。
 - 7月 4年次の研修旅行で訪れたブラザー工業が自分のやりたいことに近いと感じ、応募する。
 - 7月 中国高専にて砲丸投げ3連覇、円盤投げ2連覇。
 - 8月 全国高専で2種目ともに予選敗退で引退。
 - 9月 ブラザー工業内定。

機械電気工学科 守田 圭秀

研究室 飛車研究室
進学先 広島大学工学部

私が進学を選んだ理由は、より専門的な知識を学び、自分の可能性を広げたいと考えたからです。高専生活を通して、勉強は一気に成果が出るものではなく、日々の積み重ねが大切だと実感しました。4年生から本格的に勉強を始め、毎日コツコツ取り組むことで少しずつ理解が深まりました。この経験は進学後も必ず生きると考えており、これからも継続する姿勢を大切にしていきます。



後輩に一言

毎日の小さな積み重ねが、最後に大きな力になります！

進学までの道のりを紹介！ 守田さんのリアル STORY

- 本科1年**
 - バスケット部に入学
- 本科2年**
 - 部活中心の生活を送る
- 本科3年**
 - 将来のことを考え始める
- 本科4年**
 - 少しずつ編入勉強を始める
 - TOEICを受け始める
- 本科5年**
 - 毎日勉強する
 - 編入試験を受ける

情報電子工学科 松森 祐奈

研究室 荻原研究室
就職先 鳥津プレジジョンテクノロジー株式会社

知り合いでもない中で入学に、不安でいっぱいだったことを今でもよく覚えていますが、ですが、この5年間で、たくさんの人と出会い、多くの経験を通して自分の視野を広げることができました。何か一つでも夢中になれることを見つけると、自分の世界は大きく広がり、それが成長へとつながっていくのだと思います。高専には進学と就職という2つの道があります。ぜひ低学年のうちから将来について考えながら、いろいろなことに積極的に挑戦してほしいです。



後輩に一言

後悔のない学校生活を過ごしてください！

就職までの道のりを紹介！ 松森さんのリアルSTORY

本科1年

父が徳山高専に通っていたことで興味を持ち、入学。卓球部に入部。
入学早々遠隔授業となり、焦る。
プログラミングや専門科目で友達にたくさん助けてもらう。

本科2年

部活と勉強の両立を図るため、基本的に課題は出された当日に提出する習慣をつける。
冬 ある大会で自分的に満足いく結果を出せ、そこから部活に対する熱が冷める。本気で退部しようと考えていた。

本科3年

春 先輩の助言もあり、高体連最後の大会まで部活に本気で取り組む。しかし実験のレポートと部活、勉強の両立に苦勞する。
電子工学実験の経験から自分は電気系に向いていないと感じる。

本科4年

夏 大会後はのんびり部活に行くように。なんとなく専攻科に行くのかなと考え始める。
専攻科に行くという選択肢はなくなり、就職の道へ。
コンピュータシステム実験の経験からソフトウェア開発に興味をもつ。

夏 ソフトウェア系の会社と市役所のインターンシップに参加。この経験から就職活動に悩み始める。

冬 定期的に先生の研究室で求人票を探り始める。先生にたくさん相談する。他の企業のワンデイ・インターンシップにも参加。

3月 先生の紹介で鳥津プレジジョンテクノロジーの会社見学に参加。会社の雰囲気などからこの会社を受けることを決める。履歴書や面接練習などいろいろな先生方からアドバイスをいただく。

本科5年

4月 面接練習のおかげで、会社の面接は手応えを感じる。事前準備はしっかりしておくべきだなと思った。
10月 内定式で同期と仲良くなり、これからの社会人生活楽しみになる。

情報電子工学科 光野井 裕志

研究室 宮崎研究室
進学先 専攻科(情報電子工学専攻)

5年間を振り返ると、「進学か就職か」といった人生を左右する大きな選択から日々の些細な判断まで、数えきれない選択を重ねてきました。その中で一貫して大切にしていたことは、自分と向き合い後悔のない道を選ぶこと、そして選んだ道を自分の力で正解にしていける姿勢です。皆さんがこれから選ぶ道が、胸を張って「良かった」と言えるものになることを願っています！



進学までの道のりを紹介！ 光野井さんのリアルSTORY

本科1年

理系科目が好きで高専入学を決めた。
4月 卓球部に入部。
学習と両立しながら卒なく高専生活を送る。

本科2年

前期 遊びや部活に熱中し、欠点ギリギリの成績だった。
後期 多少反省して勉強するも前期が足を引く張り成績が落ちる。

本科3年

2年の反省を生かして真面目に過ごす。

4月 実験が始まり、レポートなど提出物の多さに苦勞。

8月 なんとなく就職しようかなと考え始める。
12月 車の免許をとる。

本科4年

前期 成績が上がり、進学か就職かかなり悩む。
夏休み サントリーと株式会社トクヤマのインターンに参加。高専卒や大学院卒など、さまざまな学歴を持つ方々と関わる中で、もう少し勉強したいと感じ、進学を決意した。

10月 迷いはあったが、同じ環境で研究を続けられる専攻科に進学することを決める。

11月 第一希望の宮崎研究室に配属される。

12月 聴講で学会に参加し、研究のモチベーションが上がる。

本科5年

研究活動に熱心に取り組む
5月 専攻科推薦入試を受験合格
9月 5年間で初めて全国高専体育大会に出場。苦しい時もあつたけど続けてきてよかったと思う。
12月 初めての学会発表を経験。

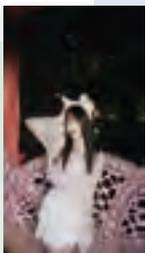
後輩に一言

5年間は一瞬！後悔のない選択を！

土木建築工学科 原田 青奈

研究室 鋼構造(海田)研究室
就職先 周南市役所

5年間は本当にあっという間です。勉強も頑張りつつ、やりたいことに全部チャレンジしてください！私は大好きなダンスを思い切り楽しみ、今までの風潮を覆して後夜祭に5年間フル出演できて嬉しかったです。そして、インターンシップは本当に大事！私は給与だけでなく、「働きたいと思える環境か」を重視しました。目標に向かって、人とのつながりを大切に、高専生活を楽しんでください！



就職までの道のりを紹介！ 原田さんのリアルSTORY

- 本科1年**
 - 4月 入学しJK謳歌。茶道部とダンス同好会に入部。
 - 10月 初めての後夜祭ダンスステージに出演。
- 本科2年**
 - 4月 ダンス同好会は蓋を開ければ活動しておらず、密かに退部。
 - 11月 同好会を辞めても、後夜祭ではパッチリ踊る。
- 本科3年**
 - 10月 後夜祭2回出演。茶道部ではお点前を披露し、部活動に励む。
 - 11月 友人と参加した「くるみパン甲子園」でまさかの本戦出場(100東京)場違いながらも米国大使館賞を受賞！
- 本科4年**
 - 4月 先輩とダンス同好会を再始動。同時に茶道部部长にも就任。就職では公務員市役所と都会の大手建設コンサル、全く違う2つのインターンシップに参加することを決意。
 - 8月 2つのインターンに参加(周南市役所、東京の建設コンサル)。東京でブラックな現実を目の当たりにした一方、周南市役所の「天国のような人の良さに感銘を受け、「ここで働きたい！」と強く確信。
 - 10月 初めてのダンス同好会として後夜祭に出演。茶道部部长としての高専祭茶会と後夜祭リーダーの両立が大変だった。
 - 2月 学年末テスト終わりと同時に公務員試験の勉強を開始。
 - 3月 周りが内定していく中で勉強する日々が辛かったが、「へこたれず頑張る！」
- 本科5年**
 - 5月上旬 一次試験。これが終わるとかなり解放感！
 - 5月下旬 一次試験合格が判明し、すぐに二次試験の面接練習。
 - 6月 二次試験を突破し、6月末に最終面接に挑む。一方で第二志望の防府市役所へ応募書類を出す際、切手をミスし返却される痛恨のミス！親に叱られ、手続きの重要性を学ぶ。
 - 7月上旬 最終合格発表があり、周南市役所に内定！
 - 10月 ダンス部として初めて大会に出演。ラストの後夜祭にも出て、5年間フル出演を果たす。

後輩に一言

若いつてもムテキです！
興味あることには迷わず、飛び込もう！

土木建築工学科 小野嶋 珠璃

研究室 土木建築情報学(山根)研究室
進学先 大阪大学工学科
地球総合工学科 建築工学科目

高専を辞めようとするなど、紆余曲折ありましたが、どんな経験も自分を成長させてくれるというマインドで、自分の視野を広げました。
編入受験を通して感じたのは、勉強「だけ」が出来ても受験は受かりづらいということ。編入を目指す人に限らずですが、勉強やスポーツなど何かを極めるだけでなく、人間力を磨き、思いやりのある人を目指してください。



進学までの道のりを紹介！ 小野嶋さんのリアルSTORY

- 本科1年**
 - 入学時から進学志望で、部活は水泳部とデザイン研究部を兼部。
 - 前期から建築甲子園に挑戦し、建築の意匠系に進もうと考える。
- 本科2年**
 - プレデザコンに挑戦。デザコン本戦にもついても、意匠のレベルの高さを知る。
 - 水泳では高校中国大会で決勝を逃し、ジュニアオリンピックにも0.3秒届かず苦しい出が残る1年となる。
- 本科3年**
 - 夏頃、高専を中退して京都工芸繊維大学へ一般受験を考え、半月準備するも断念。
 - やりたいことを改めて見つめ直し、数値を用いて生活環境を解析する「建築環境工学」に興味を持つ。
- 本科4年**
 - 年度末、水泳で小学生の頃から目標にしていたジュニアオリンピックに出演。オリンピック選手も多数出場するKONAMIオープンにも出場し、東京オリンピックの会場で2度泳ぐ。
 - 夏休み前、大阪大学のオープンキャンパスに行き第一志望を大阪大学工学科に固める。
 - 水泳は8月末の全国高専大会と10月初めの県大会で一区切りつける。
 - 10月の高専祭でステージ部署長を務める。創立50周年で芸人さんと呼び、激務だった。
 - 春休みは毎日平均10時間以上勉強。
- 本科5年**
 - 7月初め、受験が辛くて一旦ボロ泣き。
 - 7月 第一志望だった岡山大学に無事合格。ここからすべての時間を阪大受験に捧げる。
 - 前期は授業がある日も毎日6〜14時間編入試験の勉強。誰よりも勉強した。
 - 8月 受験本番8割の高得点を獲得し、CA史上初の大阪大学に合格。
 - 9月 以降は卒業研究やスキルアップ、遊びに力を入れる。

後輩に一言

まあ何事もなんとかする！
それくらいのスタンスでいよう

機械制御工学専攻 荒井 響輝

研究室 張間研究室(流体工学研究室)
就職先 メタウォーター株式会社

短期インターンだけでは将来を判断できないと感じ、実際に働く環境を知ることが大切になりました。より広い視野で進路を考えるため専攻科へ進学し、長期インターンに挑戦しました。その経験を通して自分に合う仕事像が明確になり、納得して就職先を決めることができました。



先輩に一言

経験は必ず武器になる。迷ったら色々挑戦を！

就職までの道のりを紹介！ 荒井さんのリアル STORY

本科1年

就職や進学など幅広い選択肢があること、学費が比較的安いことから入学を決める。

本科2年

コロナウイルスの流行により、授業が遠隔形式に切り替わる。

本科4年

就職か進学か、進路について考え始める。電気系の科目が苦手だったため、機械系で就職を意識する。

市役所や地元企業でのインターンシップに参加する。

短期のインターンで働くイメージがつかみにくく、県外企業などもっと幅広い業界も見たいと思ったため、長期インターンシップが可能で学費も安い専攻科への進学を決める。

一般受験に向けて、一部免除される資格の取得やTOEICの勉強に取り組む。

本科5年

専攻科を受験し合格する。

専攻科1年

先輩のインターンシップ報告書や自身の研究室の内容を踏まえ、メタウォーター株式会社の長期インターンシップに参加する。

インターンシップを通して働くイメージが明確になり、この会社への就職を決める。

Webテストの勉強を開始する。

専攻科2年

内々定を頂く。

内定式で、同期となる学生たちと交流する。

学会発表に向けて研究に励む。

情報電子工学専攻 中田 優翔

研究室 宮崎研究室
就職先 株式会社日立ソリューションズ

自身がワクワクできること、熱中できることに全力で取り組んだ7年間だったと思います。本科の初めは勉強、その後はプログラミング、そして現在は研究に熱中してきました。高専は、みなさんが熱中できることを応援してくれる、とても良い環境です。「やってみればよかった」と後悔する前に、ぜひ一歩踏み出してみてください。みなさんの活躍を心から期待しています。



先輩に一言 ワクワクしてこそその人生!!

就職までの道のりを紹介！

中田さんのリアル STORY

本科1年

社会に役立つ情報システムを開発したいという思いから、情報電子工学科に入学。

バスケットボール部に入部。学業面での遅れを不安に感じ、毎日自主学習に取り組む。初めての定期試験で好成绩を取り、学ぶことと自体に関心を持つようになる。

本科2年

新型コロナウイルス感染症の影響で授業がオンライン化し、学習へのモチベーションが低下。努力を継続するうえでの環境の重要性を実感する。専門科目が増えるなかでプログラミングの楽しさを知る。

本科3年

哲学のレポート課題を通じて人工知能について調査し、AI分野への関心が高まる。

本科4年

8月 九州工業大学大学院 立野研究室にて2週間のインターンシップに参加。機械学習を用いた画像認識の実習を通じて、研究活動の面白さに触れる。

8〜2月 デジテック for YAMAGUCHI主催のNPO法人向け食品管理システム開発にグループで取り組む。グループ開発の難しさや、システムを最後まで完成させた際の達成感を実感する。

10月 宮崎研究室に配属され、機械学習を用いた音声強調の研究に取り組む。1つのテーマを検証・実験しながら発展させていく研究活動の楽しさを知る。

本科5年

同じ研究テーマをより発展させたいという思いから専攻科への進学を決意。

9月 高専テクノゼミ主催の実践教育プログラムに参加。

11月 第26回関西支部若手研究者交流研究発表会で発表を行う。初めての学会発表を経験し、同世代の研究者との交流を通じて研究へのモチベーションが高まる。

3月 日本音響学会第151回研究発表会で発表を行う。全国規模の学会で、多様な研究の面白さと奥深さを実感する。

専攻科1年

5月 ニコン奨学金第2期生に採択される。研究活動を頑張ってきた良かったと思う。

6〜7月 名古屋大学 戸田研究室にて2ヶ月のインターンシップを行う。スーパーコンピュータである不老が使えるなど貴重な体験ができた。

専攻科2年

10月 第262回N.L.第154回SLP合同研究発表会で発表を行う。インターンシップでの成果を十分に伝えることができた。

3月 基本情報技術者試験に合格する。

専攻科2年 大学院進学が就職までギリギリまで悩んだが、高専入学時の動機である社会貢献を優先し、就職を決意。

6月 適性検査グループデイスカッション2回の面接を経て、株式会社日立ソリューションズから内々定をいただく。継続して取り組んできた研究活動でガクチカには困らなかつた。

9月 日本音響学会第154回研究発表会で発表を行う。人前での発表に対する苦手意識が薄れ、自信を持って発表できるようになる。

12月 第28回関西支部若手研究者交流研究発表会で発表を行う。継続的に成果を発信する姿勢を養う。

環境建設工学専攻 齊藤 遥奈

研究室 鋼構造(海田)研究室
就職先 株式会社シーエム・エンジニアリング

コンテストへの参加をきっかけに私の高専生活は180度変わりました。失敗が続いて足踏みする時期もありましたが、多くの人と関わり、机の上だけでは得られない貴重な経験をしてきました。課題は尽きませんでしたが、周りの仲間と二つひとつ壁を乗り越えて、この8年間で大きく成長できたと思います。就職してからもたくさんの方に挑戦していきたいです。

就職までの道のりを紹介！ 齊藤さんのリアルSTORY

本科1・2・3年

公務員を目指して高専入学。3年次はコロナ禍での遠隔授業を経験。

本科4年

9月 インフラマネジメントテクノロジーコンテストに初参加。学校生活の中で定期テスト以外のやりがいを見出。

10月 高専でもっと学びたい思いが強くなり、公務員就職から専攻科へ進路変更。

3月 コンテストを通じて知識不足を痛感。建設現場の見学会に積極的に参加開始。

本科5年

5月 専攻科入試に失敗。高専で学びたい思いが強くなり、再受験を決意。

後期 インフラテクノロジーに再挑戦！現場見学会に参加してきた経験を活かし、現場で学生と建設業界をつなぐサイト「Flanavi」を提案。

2月 専攻科入試対策開始。数学のワークを全制覇する勢いで毎日勉強。

研究生

5月 専攻科入試に再挑戦。先生方や周りのサポートもあり無事合格。

11月 Flanaviが山口県と官学共同研究に発展し、実装へ動く。

11月 研究と並行して3カ月間勉強し、技術士一次試験に合格。

専攻科1年

前期 長期インターンを経て株式会社シーエム・エンジニアリングへ就職を決める。

8月 一級土木施工管理技士二次試験に合格。

1月 就職試験を経て内定。

専攻科2年

前期 Flanaviがついに試験運用開始。

後期 学生生活の集大成として3つのコンテストに挑戦。(テクノロジー/GCON/ビジュコン) テクノグラプリとGCON優秀賞を受賞。

後輩に一言

無駄になることは一つもない！
どんどん挑戦しよう。



モチベーションアップ講習



キャリアデー



コミュニケーション講座

キャリア教育・学習支援室より

キャリア教育・学習支援室長 宮崎 亮一

本校のキャリア教育・学習支援室では、低学年から専攻科まで一貫したキャリア教育支援プログラムに基づき、学生のキャリア形成を多面的に支援しています。1年生には「高専での学び方」や卒業生講話を行い、2年生ではキャリア入門や企業理解を深めるガイダンスを実施しました。3年生ではキャリアプランの作成に取り組むなど、学年段階に応じたプログラムを展開し、キャリアアデーや「やまぐち企業交流フェス」など地域企業と触れ合える機会も積極的に提供しています。

また、学習支援として本校のキャリア教育・学習支援室では、1・2年生を対象に数学の勉強会を継続的に実施しました。数学はすべての工学分野の基礎となるため、低学年のうち理解を深め、学習習慣を身につけることが重要です。学生が授業内容に不安を感じる前にフォローできるように、学生TAとも連携しながら、質問しやすい環境づくりにも取り組んでいます。

キャリア教育では、講話やイベントを通して「知らなかった企業を知る機会になった」「卒業生の話が具体的で参考になった」という声が多く、進路を考える上で大きな刺激になっています。

キャリア教育は学校だけでなく、保護者や地域企業の皆さまの協力にも支えられています。引き続きご理解とご支援をお願いするとともに、学生には担任以外の教員にも気軽に相談し、視野を広げてほしいと思います。



留学生だより

徳山高専の思い出

情報電子工学科5年
Bousselmi Yassin (ヤッシン)

徳山高専での生活を振り返ると、まず思い出するのは、クラスで出会った友だちです。留学生として来たときは少し不安がありましたが、クラスメートがとても親切で、すぐに学校生活に慣れることができました。みんなのおかげで、毎日の学校生活は楽しく、たくさんの良い思い出を作ることができました。

また、学校の行事や旅行を通して、山口県のいろいろな場所を訪れました。下関、秋芳洞、岩国の錦帯橋などが特に印象に残っています。友だちと一緒にに行けたことが、とても楽しかったです。

高専祭では、クラスメートと協力して準備をし、当日もさまざまな企画を楽しみました。最後に、3年間支えてくださった先生方に心から感謝しています。



【出身国】
チュニジア



徳山高専で過ごした思い出

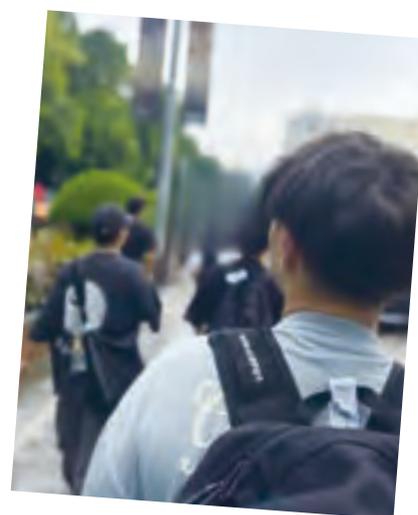
土木建築工学科5年
Ulambayar Tuguldur (トゥグ)

It's hard to believe how quickly my three years at Tokuyama Kosen flew by. The time I spent here is a precious part of my life that I will truly cherish. When I first enrolled here, I was worried about whether I could keep up with the difficult specialized subjects and fit into a new environment. But thankfully I was never alone. My teachers and Japanese friends were always there to help me. Thanks to their kindness, I was able to quickly settle in and started enjoying not only my studies but also my life in the dormitory.

Studying in the Department of Civil and Architectural Engineering was challenging, but it also helped me discover a real passion for it. One of my most unforgettable memories is when I went on a land surveying training camp with all of my classmates. It was a powerful experience where I learned both the trials and the joys of working with a team to achieve something. Also the class trip to



【出身国】
モンゴル



Hong Kong on my 4th year was a special journey, filled with delightful memories.

Looking back on these three years, I feel happy and proud of how much I've grown. Tokuyama Kosen has truly become a special place to me, with all the bonds that I was able to make with various people. I am deeply grateful to everyone who supported and encouraged me. I will carry the various lessons I learned and the friendships I made here as I work toward my next goal.

国際交流活動報告

フィリピン セブ島語学研修



毎年、夏季と春季にフィリピンのセブ島にある語学学校で、2週間の研修を実施しています。研修の最初と最後にIELTSのテストを受け、学生たちは、英語力の伸長を確認することができました。レベルにあった授業が組まれ、朝から夕方までマンツーマンレッスンやグループレッスンで英語漬けになります。



シンガポール海外研修



3月に提携校のシンガポールポリテクニクで2週間の研修を行いました。現地学生との交流、提携校でのワークショップ、現地企業の視察などを行いました。多民族国家であるシンガポールの異文化に触れながら、実践的な語学力とグローバルな視野を養いました。



シンガポールポリテクニク派遣受け入れ



6月にシンガポールポリテクニクから14名の学生が8日間徳山に滞在しました。授業での活動、歓迎会、山口市案内、広島平和公園案内などを通して本校学生と友情を育みました。



マレーシア インターンシッププログラム



9月にパナソニックのマレーシア工場でのインターンシッププログラムに4年生の学生5名が参加しました。現地スタッフと英語でコミュニケーションを取りながら、様々な文化が共存するマレーシアで、働き方の違いを肌で感じることができました。



タイ サイエンスフェア研究発表



12月にタイで開催された、タイ日学生サイエンスフェアで1年生2名が「倍数または特定の数字を含む数の一般化と漸近分布」のテーマで数学の研究発表を行いました。日本とタイから350名近くの学生が招かれたイベントで、同年代の理系学生の研究に触れて親睦を深めることができました。



タイの人たちと交流した際に印象に残ったことは、日本人よりも明るく話していたことです。初対面の人にも、明るく話していて、国民性の違いが少し出ているのかなと思いました。サイエンスフェアで研究発表をする際に、私は英語を喋ることはできただけで質問が聞き取れなかったため、英語の聞き取りをもっと頑張りたいです。

情報電子工学科 1年 久保綾人

印象に残ったことは、彼らはなんでもするというところです。とりあえずやってみる、できなくてもやってみるという姿勢は見習うべきだと思いました。英語での発表だったので質問がなかなか聞き取れず相方に苦労をかけました。でもタイの人たちの姿勢を見習って恥ずかしがらずにやれたので及第点かなと思います。

情報電子工学科 1年 松本恵太



トビタテ! 留学JAPAN

新・日本代表プログラム

本校では官民協働の留学プロジェクト「トビタテ!留学JAPAN」の奨学金申請のサポートを行っています。
2025年2月～3月に留学した3名の学生の声をお届けします。

「障がい者を支えるコミュニケーションツールの作成に向けたT・A技術の学習と考察」というテーマを設定して、5週間台湾に留学しました。最初の1週間は食生活や気候に戸惑いましたが、次第に慣れ、A1研究に取り組みながら工場見学や現地学生との交流を楽しむことができました。台湾は市場が多く、朝市で新鮮な果物を買ひ、夜は露店でアイスや北京ダックを食べ歩くなど、食文化の魅力を満喫しました。英語で会話しながら中国語にも挑戦し、時には日本語を話す人に出会うこともありました。言語の壁を越えた交流は大きな学びとなり、充実した日々でした。

情報電子工学科4年 竹中 優貴



「メタバースの利用方法に関する日本とシンガポールの比較調査とIT技術の向上」というテーマを設定し、シンガポールに約3週間留学しました。振り返ると、学びと発見に満ちた留学でした。Singapore Polytechnicをはじめとする多くの施設や街中で、メタバースやVR・ARの技術やデザインについて探究活動を行いました。多民族が共生する環境からも様々な発見がありました。シンガポールには多くの魅力的な点がありますが、特に都会と自然が共存した街並みや、チキンライスやカヤトーストなどのローカルフードがお気に入りです。今でもずっと忘れられません。初めての海外で英語に不安もありましたが、翻訳機能も活用しながら乗り越え、より豊かなコミュニケーションのために英語学習に力を入れていきたいという意欲が芽生えました。

情報電子工学科4年 川元 ゆずな



2月24日から3月15日まで、フィリピンで約3週間の留学を経験しました。現地では「貧困地域で使える医療アプリの開発」をテーマに、インフラや通信環境を調査し、HTMLを使ったUIデザインを学びました。昼間は30度近い暑さに驚きつつ、夜はナイトマーケットで食事や買い物を楽しみ、シンググヤレチョン、パロットなどフィリピンならではの料理も味わいました。美しい海や多様な文化に触れ、貧困地域の現状を目の当たりにしたことは大きな学びでした。英語に不安もありましたが、仲間と協力しながら乗り越え、ポジティブに過ごせたことが自信につながりました。

情報電子工学科4年 村田 菜ノ美



新入寮生集合写真2025



1月



予饗会

2月



卒寮式



寮生会役員2025

- 4年 甲斐 愛央
- 4年 背戸 雫
- 3年 松田 聖那
- 4年 小川 要
- 4年 阿比留 尚輝
- 4年 小本 空澄
- (後期から原田 倅誠)
- 4年 市川 皓生

この1年間はあつという間でした。1年前に新寮生会となり手探りをしながら過ごしてきました。その中で寮生会の仲間や先輩、寮務室や事務室の方にはとても助けてもらいました。そのおかげで楽しい1年間になりました。寮が少しでも過ごしやすい環境になつていたらいいと思います。残り1年間は進路を決め切り、自分のやりたいことをしまくりまします。ありがとうございました。

寮生会長(男子寮長)

土木建築工学科 4年 阿比留 尚輝

今年には副寮長として寮の運営にかかわりました。今まで何となく楽しんでた寮の行事の数々がかなりの量の試行錯誤の上になりたつていました。メインは男子寮長を中心にその役割を担っていました。副寮長は男子寮長を助けて支えることが出来てよかったです。来年は後輩の運営を陰ながら応援し、よりよい生活になることを願っています。

副寮長(女子寮長)

土木建築工学科 4年 背戸 雫

今年には副寮長として初めて寮の運営にかかわりました。今まで何となく楽しんでた寮の行事の数々がかなりの量の試行錯誤の上になりたつていました。メインは先輩たちがその役割を担っていました。副寮長は先輩たちを助けて支えることが出来てよかったです。来年も何らかの形で寮の運営にかかわり、よりよい生活を目指したいと思います。

副寮長

土木建築工学科 3年 松田 聖那



試験前

学寮勉強会



4月

新入寮生歓迎マッチ&BBQ



7月

高城寮夏まつり



5月
11日

学寮避難訓練



4月

留学生研修旅行



10月

後期寮生マッチ



4月

入寮式



指導寮生として挨拶の活性化に努めた二年でした。気持ちのよい挨拶が飛び交う高城寮を目指し、他寮生の模範となる行動を心がけておりましたが、高城寮の過ごしやすさの向上に貢献できていましたら嬉しく思います。

寮生会の役員と一年間を通して、企画の立案・運営に携われたことは非常に良い経験であり、何よりも楽しい思い出になりました。

今後高城寮の発展に寄与できることがありましたら、積極的に言い、指導寮生長として得た経験を糧にして将来活躍できる人材を目指します。

指導寮生長
機械電気工学科 4年 市川 皓生

一年間ありがとうございました。小本くんからの引き継ぎで短かったです。楽しかったです。また、これを書いている今、来年度で卒業という事実にとっても驚いています。次期寮生会は僕のラストイヤーを華々しく、そして素晴らしいものにするために行事の企画・運営を頑張ってください。

内務部長
情報電子工学科 4年 原田 倅誠

楽しく活動できました。今年は清掃システムで新たな試みをしました。これによって寮がより過ごしやすい場所になってほしいなと思っています。学寮行事に関してはとにかく楽しかったです。寮の行事はなかなか学校の行事とも、プライベートの遊びとも違う独特の雰囲気があり、寮の魅力であることは間違いないと思います。そんな学寮行事運営に携われたことはとても良い経験になりました。

美化厚生部長
土木建築工学科 4年 小川 要

学生会活動

前期・後期 クラスマッチ



挑戦し続けた1年間を振り返って

学生会長
情報電子工学科4年 行田晴

私は昨年、学生副会長として学生会長を補佐し、今年4月に学生会長に就任しました。目標は、新しいことに挑戦し学校をより楽しめる場にするのでした。

昨年頃から新型コロナウイルス感染症に伴う制限が緩和され、種々の活動が自由にできるようになってきました。そこで、学校をより活性化させたいという思いからこの目標を掲げ、いくつかのことに取り組みました。

まず、クラスマッチの競技の決定方法について体育局長たちと相談し、全学生にアンケートを取ることにしました。そして、その要望をもとに種目の変更や追加を行いました。また、競技の実施方法も工夫し、バレーボールの決勝戦は体育館中央にコート

を設置し、全方向から観戦できるようにしました。準備等で多忙のなか、要望に応えてくれた体育局長には本当に感謝しかありません。

次に、新たに設立された「学生会サポーターグループ」は今年の大きな成果の一つであると考えています。このグループは学生会をサポートしたり、学校の諸課題を学生目線で解決したりしていくために作られた組織で、学年を問わず多くの学生が参加しています。主な活動は、1年生研修や留学生研修のサポート、クラスマッチやロボコンなど各種行事の運営補助です。さらに、朝の挨拶運動など、これまでの徳山高専にはなかった新たな活動にも積極的に取り組んでいます。

私は学生会長に就任してから何事も楽しむことを意識してさまざまなことに挑戦してきました。



断念せざるを得なかった試みも多くありましたが、考え抜いたその過程は非常に有意義な時間でした。だからこそ、新しい取り組みが成功したときの達成感は格別でした。最後になりますが、多くの方々に支えていただいたおかげで、挫折せずに挑戦し続けることができました。この1年間、大変お世話になりました。皆様にご心より感謝申し上げます。

クラスマッチ

体育局長
機械電気工学科4年 中道洋佑

今年度、前期クラスマッチは4月30日、後期クラスマッチは10月8日に開催されました。前期クラスマッチは快晴の中、サッカー、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール、リレー、そして新しくドッジボールを加えた全6競技行いました。どの競技も白熱した戦いが繰り広げら

加えて、クラスマッチ前日に雨が降った影響でグラウンドコンディションが悪かったため、急遽当日に競技内容を変更しなければならなくなりました。そこで前期の競技のソフトボールをフリスビードッジに変更し、バスケットボールとバレーボールは例年では体育館を2つ使用していました

た、運営側としてうまくいかなかったという思いがあった一方で、学生の皆さんからは「クラスマッチ楽しかった」という声をたくさんいただきました。急遽追加したドッジボールの評判が良かったために、今後に向けた気づきの多いクラスマッ





高専祭

高専祭

れ、観客の大きな声援の中、クラスの仲がさらに深まった素晴らしいクリスマスマッチになったと思います。

後期クラスマッチでは当時第一体育館が工事中であったことに

が、第二体育館のみで行うこととなりました。もちろん不安もありましたが、先生方やクラスマッチ運営のみんなの支えのおかげで無事終わることができたことはとても感謝しています。ま

ちとなりました。

今後も学生会でクラスマッチを改善させ、さらに楽しいクリスマスマッチを開催したいと思っ

今年の高専祭は10月25日(土)・26日(日)に開催されました。テーマは「革命」の「revolution」と「進化」の「evolution」を組み合わせた「Revolution」50周年のその先へ」で、昨年創立50周年目を迎えた徳山高専のさらなる発展を祈念しています。

準備は4月頃から10名の部署長と一緒に始めました。例年ステージ企画やメイン企画で使用している第1体育館が改修工事のため第2体育館で実施することになりましたが、担当部署長と連携して早めに準備を始めたことで問題なく実施することができました。夏季休業中にポンサー部署や周南ロボコン部署が一足早く準備に取り掛かり、後期が始まった10月頃から、案内部署と美化部署は看板製作、広報部署はパンフレット作成、本部は特設ウェブサイトの構築やSNSでの発信など、忙しくなりました。

高専祭当日は、2日間にわたるステージ企画や徳山高専三学科の技術を結集したメイン企画、各学科の特色を打ち出した学科企画、周南ロボコン、模擬店など、さまざまな企画が行われました。1日目は天候に恵まれず雨となり、屋外の飲食模擬店は大丈夫か、屋内のイートインスペースは足りるか、体育館の床が濡れないかなど、不安要素はありましたが、大きな問題は起こらず無事に終えることができました。2日目は、1日目と変わって好天に恵まれました。晴れたことや日曜日だったことで多くの方に来校いただきました。そして、2日間で予定されていた企画、イベントをすべて無事に終えることができました。想定外の事態も多く、思いどおりにいかないことも多くありましたが、今年から本部の人員を増やし3名の実行委員長補佐に入ってもらったおかげで、スケジュール的にも精神的にも余裕を持って準備を進めることがで

きました。

補佐のみなさんには感謝してもしきれません。この場を借りて感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございます。

実行委員長として学んだことは、仕事を一人で抱え込むのではなく仕事を割り振ることの大切さです。このことは社会に出ても必要だと思います。私はこれまでリーダーの経験がなく、初めてのことがばかりで至らない点が多く、迷惑をかけることも多かったと思います。しかし、部署長やクラスの高専祭実行委員をはじめとする学生のみなさん、高専祭の運営をサポートしてくださった教職員の皆様、そして、地域の皆様のご理解・ご協力のおかげで無事に開催することができました。改めて高専祭にかかわってくださったすべてのの方に、この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

高専祭実行委員長
情報電子工学科4年 池永珠希



退職教職員から

徳山高専での44年間

情報電子工学科 准教授

杉村 敦彦



15歳の春に徳山高専の門をくぐり、学生として5年間、その後大学で4年間過ごし、本校に戻ってきたからは教員として39年間、合計44年の歳月を徳山高専で過ごしました。

その中で、印象深いのは、ロボコン、水泳部、担任業務です。

ロボコンでは、1991年の「白猫号」から関わり、国技館での決勝ではルール上は優勝していたのですが、再試合となり、残念ながら準優勝でした。その後、1996年には「午前10時」で全国優勝、1999年「Fly DoポテットS」ではロボコン大賞を受賞できました。これは学生の皆さんの頑張りとお教職員の皆さんに支えられたおかげです。その期間は、国技館には毎年足を運び、国技館の中を隅から隅まで見る事ができました。(相撲は観たことがありませんが)

水泳部については、学生時代は部員として、教員として戻ってきたからは顧問として本校にいる間の44年間関わってきました。

部員が7人しかいないのに中国地区で団体3位という結果を残したときもありました。また、中国地区で団体8位(最下位)ということや、団体優勝という経

験もさせてもらいました。近年では、優秀な選手が多く、地区大会では常に上位をキープし、全国高専大会でも団体2位、3位となる事ができました。なかでもリレーで優勝できるのは感慨深いものがあります。そのおかげで、選手の引率として全国各地のプールに行く機会を与えてもらえました。北は北海道、秋田、四国の高知、南は鹿児島まで様々なプールに選手と一緒に訪れました。また、山口県の水泳連盟のお仕事も手伝うことができ、貴重な経験となりました。

最後に、担任についてです。4・5年生の担任は、3回。その他、2年生、3年生の担任も受け持ちました。その中で感じることは、学生一人一人が、大なり小なりなにかしら色々なものをかかえているということだと思います。ただ、それぞれの学生がなんとかそれを乗り越えていく姿を間近でみる事ができたのはうれしい限りです。

これらのことを考えると、ロボコン、水泳部、担任として学生の成長する過程をすぐそばで見られたことが一番の喜びだったと感じています。

皆様、これからも頑張ってください。

徳山高専での教員生活と雑感

情報電子工学科 教授

高山 泰博



二十数年の電機メーカー勤務を経て、平成21(2009)年に着任しました。以後、十六年半の間に、担任、学寮、専攻科、教務、学生相談室などの校務を担当させていただきました。

着任時に、学齢十六歳の本科一年生から学齢二十二歳の専攻科二年生まで七年の年齢幅のある学生の皆さんと話すのは覚悟していたのですが、一方で入学前の中学生向けに学校説明をしたり、地域や小学校での科学教室で就学前の子供たちや小学生に教えたり、他方では企業の業務支援のため経営者・技術者の方たちと議論したりと、高専教員の職務はかなりの年齢層の人たちと接する仕事なのに驚きました。

前職勤務時に検索エンジンや文書管理システムの開発に携わっていたので、その時の仕事において私が学生時代に勉強した内容で役立つことを授業の一部の課題などにすこし反映したつもりではあります。が、どれほど学生の皆さんに伝わったかはわかりません。十数年前は携帯電話がケータイと呼ばれる頃で、予算を獲得してタブレット端末をクラスの半数程度購入し、演習時に二人で一台中づつ使ってもらうような状態でした。今や高機能なスマホを個人で手にし、ノートPCを入学時に全員が購入して、ほとんどの授業でそれらを駆使するようになりました。この十年間だけでも情報環境の進化は隔世の感があります。

私が最初の勤務先に就職した時は、いわゆるバブル経済に向かつて空前の好況期でした。その後バブル崩壊による経済の悪化、またIT(ドットコム)バブルの勃興とその崩壊と経済状況が目まぐるしく変わるなかでの会社生活でした。徳山高専着任時期はリーマンショック直後だったので、大学生の内定率が低く意図的に卒業せずに翌年に就職活動をするという記事が連日のように新聞に載っていました。幸い徳山高専の就職状況はこの時も、そして東北の大震災や新型コロナウイルス感染症パンデミックの際も卒業前の五年生が就職先に大きく困ることはなかったことが幸いでした。

前述のような技術的な進化や経済状況の変化はこれからも何度も繰り返し起こってくるでしょう。その時に自分ができるように対応できるかどうかは普段から着実に仕事をこなしておくことが大事だと思います。学生の皆さんが学校を卒業して社会に出た後で研修期間を終えると、誰かが何かを教えてくれることは年齢とともに少なくなるはずですが、日頃の学習や生活の中で環境の変化に対応する力を身に付けていって欲しいと思います。

最後になりましたが、教職員や保護者の皆様をはじめとして、ご支援いただいた方々に感謝申し上げます。また、徳山高専にかかわる皆様のご活躍とご健勝を祈念しております。

新体制と50周年に向けて

高城会理事長
機械電気工学科15期卒

張間 貴史

理事会の様子

高城会では、毎年高専祭に合わせて理事会を開催しています。今年の理事会では、前年度の事業・会計報告と監査報告に続き、今年度の事業計画と予算案を審議しました。

その中で、役員改選が行われ、会長に機械電気工学科11期卒 恵良勝治氏が就任、副会長には土木建築工学科13期卒の中谷浩正氏が新たに加わることが承認されました。

昨年度は徳山高専50周年記念事業への寄付を行いました。今年度は大きな事業は予定していません。一方で、4年後の高城会50周年記念事業に向けて、活発な議論が行われました。



恵良会長



編集後記



今年度も年度末を迎えました。今号では、本校が開催校を務めた高専ロボコン中国地区大会や、高専初の快挙となったICPC世界大会出場など、世界や地域で躍動する学生の姿を特集しました。競技に挑む熱意はもちろん、裏方として大会を支える頼もしい姿にも、徳山高専生らしい「底力」を感じた一年でした。春は次のステージへの出発点です。ここでの経験を糧に羽ばたく学生たちを、これからも温かく見守っていただければ幸いです。

(高専だより編集委員 西村)



本校の「設計情報工学」プログラムは、日本技術者教育認定機構(JABEE)からの認定を受けています。



本校は、令和元年度に独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の認証評価を受け、認証評価基準を満たしていると認定されました。平成18年度に同機構による認証評価を得ており、引き続き認定されたものです。

徳山高専だより No.79

発行 徳山工業高等専門学校 総合企画室
所在地 〒745-8585 山口県周南市学園台
TEL (0834)29-6200 (代表)
FAX (0834)28-7605 (代表)
印刷 株式会社新周南クリエイティブワークス
発行日 2026年(令和8年)3月11日
URL <https://www.tokuyama.ac.jp/>